



年報

モンゴル・日本人材
開発センター



第16号
2024年



モンゴル・日本人材開発センター



年報

(2023.01.01-2023.12.31)

2024 年



設立及び発展の経緯

モンゴル・日本人材開発センター(MOJIC)は(以下モンゴル・日本センター)、モンゴルの市場経済化促進に貢献する人材の育成と、モンゴルと日本の相互理解促進を目的として、国際協力機構(JICA)と教育省、モンゴル国立大学の協力により、2002年に開設しました。現在、ビジネス人材の育成、日本語教育、相互理解促進をメインに活動を開催し、2012年より、日本語教育及び相互理解促進事業については、新たに国際交流基金(JF)が協力を行っています。さらに、これまでに築いたネットワークを活かし、日本・モンゴル間のビジネス交流の橋渡しにも力を入れています。

2002年1月22日	JICA技術協力プロジェクト第1フェーズ開始
2002年3月14日	日本政府はプロジェクトの開始にあわせ、無償資金協力により、センターの活動に必要な施設を建設(総工費4.43億円、総床面積1,520㎡)
2002年6月21日	秋篠宮殿下・妃殿下ご臨席の下、センター開所式を挙行
2007年1月22日	JICA技術協力プロジェクト第2フェーズ開始
2007年7月16日	皇太子殿下ご臨席の下、センター設立5周年記念式典を挙行
2009年7月3日	延べ入館者100万人を達成
2012年1月22日	JICA技術協力・ビジネス人材育成プロジェクトを開始
2012年4月1日	独立行政法人国際交流基金(JF)によるJF講座開始
2012年4月13日	モンゴル国立大学独立採算ユニット化
2012年6月21日	設立10周年記念式典を挙行
2015年4月22日	JICA技術協力・モンゴル日本人材開発センタービジネス人材育成・交流拠点機能強化プロジェクト開始
2016年4月1日	延べ入館者200万人を達成
2017年6月14日	金子晴彦先生ご寄贈陶芸作品「ハッピーブルーウォール」除幕式実施、展示開始
2017年6月21日	設立15周年記念式典を挙行
2020年4月22日	JICA技術協力・モンゴル日本人材開発センタービジネス人材育成・交流拠点機能強化プロジェクト フェーズ2開始
2020年10月19日	延べ入館者250万人を達成
2022年6月21日	設立20周年記念式典を挙行



ビジョン

モンゴルの未来を担う人材の育成を通じ、モンゴル・日本両国の架け橋となることを目指します。

ミッション

利用者のニーズに沿ったサービスの企画・実施を通じ、モンゴル・日本両国の社会・経済の発展に貢献します。

スローガン

モンゴルの未来をここで育てよう！

私たちが提供できる価値

- ✓ モンゴルにある「日本の風景」
- ✓ 日本的なサービス・日本関連情報の提供
- ✓ 日本で培われた知識経験の提供
- ✓ 優秀な人材、モンゴル人・日本人スタッフによるチームワーク
- ✓ モンゴル国立大学をはじめとする、多くの機関・団体との協力関係
- ✓ JICA、JF を初めとする、日本の関係機関による強固で継続的な支援体制



目次

序文

モンゴル・日本人材開発センター所長 Ts.ダワードルジ.....	7
----------------------------------	---

ご挨拶

在モンゴル日本国特命全権大使 井川原賢.....	8
--------------------------	---

モンゴル国立大学 学長 D. バダルチ.....	9
--------------------------	---

独立行政法人国際協力機構(JICA)モンゴル事務所長 田中伸一.....	10
--------------------------------------	----

独立行政法人国際交流基金 (JF) 日本語第1 事業部長 四ツ谷知昭	11
--	----

モンゴル・日本人材開発センター チーフアドバイザー (JICA 専門家) 井崎宏.....	13
---	----

I. ビジネス課

1. ビジネスコース、セミナー実施報告.....	15
--------------------------	----

ビジネス人材育成コース実施状態.....	15
----------------------	----

1) 集団研修：ビジネスコース.....	15
----------------------	----

2) 個別研修：企業内研修、モデル企業課題解決型プログラム	18
-------------------------------------	----

3) 本邦研修.....	19
--------------	----

2. 日本とモンゴルのビジネス交流の促進.....	34
---------------------------	----

1) ビジネス交流支援事業は拡大し、より多くのプロジェクトや事業と協力した。.....	34
---	----

2) 「日本・モンゴルビジネスフォーラム 2023」を開催した.....	37
--------------------------------------	----

3. コラム.....	37
-------------	----

1) モンゴル・日本センタービジネス交流支援事業×JICA 民間連携事業の好事例.....	37
---	----

2) 専門コースを初めてザブハン県に開催した.....	39
-----------------------------	----

3) 「Global Value Chain」新しい専門コースが追加された.....	39
--	----

4) “ICT・デジタルビジネススタディーツアー in モンゴル” 開催.....	40
---	----

4. 受講生の声.....	41
---------------	----



II. 日本語課

1. 2023 年日本語課活動全般.....	46
1) 日本語講座の概要.....	46
2) 共催事業について.....	47
2. コラム.....	57
1) 日本語観光ガイド養成実践講座 2023.....	57
2) 「仕事に役立つ実践日本語講座」新規開講.....	59
3) モンゴル JDS 来日準備日本語講座.....	60
4) 京都大学 iUP プログラム入学予定者のためのプレ日本語講座 2023.....	61
5) 「特定技能」関連業務.....	63
3. 事業コラム	
1) 初中等日本語教員教授法研修会 2023.....	65
2) 第 15 回日本語教育シンポジウム.....	66
3) 第 29 回学校対抗日本語スピーチコンテスト.....	67
4. 受講生の声.....	68

III. 図書交流課

1. 2023 年度の図書交流課活動概要.....	83
1) 図書室運営.....	83
2) 「定期映画会」日本映画上映.....	84
3) 市民講座.....	84
4) 日本留学フェア-2023.....	84
5) 受託事業.....	85
2. コラム.....	88
1) 日本留学フェア-2023.....	88
2) 第 83 回市民講座「現代に生きる伝統衣装デール」.....	90



3) 博報堂教育財団の「日本語交流プログラム」	92
4) 読書会：村上春樹『海辺のカフカ』	93
5) 日本文化紹介講座「浴衣着付け体験イベント」	96
6) 日本に行く前に知っておきたい社会文化.....	97

IV. 総務課

1. 2023 年度の総務の活動概要	99
2. コラム.....	101
1) 国際大会の開催	

V. 各チームの活動

1. 広報チーム	104
2. 5S 改善チーム	105
3. 健康・スポーツチーム	106
4. イベントチーム	107



序文



皆様に 2023 年度の事業報告をさせていただきます。

2023 年、弊センターは 37 種 276 事業を実施し、計画した業務の達成率は 100.7%となりました。

センターの全職員の平均給与は 210 万トゥグルグに達し、この額はモンゴルの平均給与より高い水準にあります。しかし、モンゴル国内のインフレ率が 9.4%に達したため、実質賃金の減少につながりました。

職員数にも変化がありました。ゼネラルマネージャーというポストに国立大学の教授職とセンターの GM 職をバトデルゲル教授が兼任することになりました。バヤルマー職員は JICA 長期研修による日本留学を成功裏に終え、仕事に復帰しました。

センターの財務状況としては業務を平常通りに継続できる見込みとなっています。

2023 年度収支実績は、収入計画を 9.2%を上回り、支出計画から 2.1%削減することができました。国際協力機構や国際交流基金の支援も変わらず続いています。年間予算の約 3 割が上記の 2 機関によって賄われております。

2023 年度の光熱費、電気代、水道代などの固定費の大部分がモンゴル教育省の予算から支弁されたことはセンターにとって大きな支えとなりました。センターの年間予算の 2%に相当する 3200 万トゥグルグを教育省が負担したことになります。

2023 年度に行われた事業の詳細はこの年報でご覧いただけます。今年度の年報は、昨年と同様、電子形式で発行されます。

いつも私たちの活動を支援し、ご協力を賜ります日本とモンゴルに関わりのある全ての団体、個人の皆様に心より感謝申し上げます。皆様のご支援、ご協力のおかげで、当センターの活動は常に前進し、成功を収めています。

今後も、センターは知能と知識を総動員して事業に懸命に努め、当センターの評判を高めることを誓います。

モンゴルの未来を明るく輝かせるために、センターの職員一同全力で取り組んでまいります。

皆さんの幸運を祈ります。ありがとうございます。

モンゴル・日本人材開発センター所長 Ts. ダワードルジ



ご挨拶



2023年は、両国の人の往来が徐々に回復し、様々な交流が行われた年となりました。両国の関係者のこれまでの多岐にわたるご愛顧とご支援に、日本政府を代表して深く感謝申し上げます。

私は2023年12月にウランバートルに着任しました。私は、これまで主に日中関係に携わってきましたが、累次にわたり日モンゴル関係にも関わって参りました。1988年に北京からの出張でモンゴルを初めて訪問した後、1991年には海部総理（当時）が我が国総理として初めてモンゴルを訪問した際にはウランバートルでの受入準備に参加したり、その後もEPA事前協議や日系企業との炭鉱視察等々で来訪しています。また家族や友人達とプライベートで来訪したこともあり、モンゴルは大好きな国の一つです。モンゴルで大使として活動できることを嬉しく思っています。

日本はモンゴルとの間でこれまで良好な関係を構築してきました。これは、多くの先人や関係者の方々の弛まぬ努力の賜です。その中でも日本センターが担ってきた役割は大きく、20年間以上にわたり日本語教育、日本とモンゴルの人脈形成における拠点、ビジネス人材育成など、時代とニーズに応じたサービスを提供し続けています。先日、市内で見ず知らずのモンゴル人の若者が日本語で話しかけてくれました。まだ高校生である彼は一度も日本には行ったことがないにも関わらず流ちょうに日本語を話していて驚かされましたが、日本センターで日本語を勉強しているということで、日本センターは二国間関係の未来を担う人材育成の重要な足がかりとなっていることを実感いたしました。

今後も日本センターがモンゴルの発展及び日本・モンゴル関係の強化に一層貢献されることを祈念し、ご挨拶とさせていただきます。

モンゴル駐劄日本国特命全権大使
井川原賢



ご挨拶



モンゴル国立大学、モンゴル日本人材開発センターは、モンゴルの発展に貢献できる人材の育成と経済連携協定の実施に向けて重要な役割を果たしています。さらには両国の研究者、専門家及び企業家等とのマッチング、連携を促進する活動を真摯に実施してきましたが、今後も強化すべく努力をしています。

これまで、モンゴル日本人材開発センターの活動をさらに効率的にするため、合同調整委員会（JCC）を運営してきましたが、その努力と貢献についてもここで改めて強調させて頂きたいと思います。

この場をお借りして、モンゴル日本人材開発センターを全面的に支援して来た日本国大使館、国際協力機構（JICA）、国際交流基金（JF）、教育科学省、大蔵省、労働社会保障省及びその他関係機関に対し、モンゴル国立大学から感謝申し上げます。

モンゴル国立大学は、モンゴル日本人材開発センターが今後も皆様の期待に応えられる活動を行えるよう各講座、各活動に協力し、力を合わせ取り組んでいきます。そして、両国の社会・経済の進展に向かって努力致します。

皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

モンゴル国立大学 学長

D. バダルチ



ご挨拶



モンゴル・日本人材開発センター（以下、日本センター）プロジェクトは、新たなフェーズを迎えてから約4年が経過しました。プロジェクト期間中、日本センターの皆さまの日々の努力及び意気込みにより、ポストコロナの影響を一番に受けている民間セクター分野の支援を継続して実施してきたことに対して、改めて心からお礼申し上げます。

2023年は、本格的に日本とモンゴルの往来が復活し、日本センターの主要な取組であるビジネスコース、ビジネス交流、モンゴル人材キャリア支援の文脈で、さまざまな取組が実施されました。例えば、外国人材送り出しに関する取組として、茨城県と連携した茨城県就労セミナー、ビジネスコースの優秀企業を対象とした本邦研修、モンゴル日本ビジネスフォーラムやジャパンフェスティバルといった大規模なイベント、モンゴルのスタートアップ企業による日本でのピッチイベントなど、日本センターの取組は多岐に渡ってきており、日本センターの役割の重要性はさらに増しています。

24年3月には、日本センターは、JICA、モンゴル政府、モンゴル商工会議所、日本帰国留学生の会（JUGAMO）等と協力し、アジア最大級の食品・飲料展示会のFOODEX JAPAN2024にて、初めてモンゴルブース - Mongolian Pavilion - を出展し、食品業界のモンゴルの民間企業5社に対して、展示会出展や商談、マーケティング、輸出業務に係る技術支援を行いました。今後も、FOODEX JAPANをはじめとした、展示会への出展支援などを通じてモンゴルと日本の民間企業のビジネス交流が促進されることを祈念いたします。

これまで日本センター及びJICAの協力活動を支えてきていただいたすべての皆さまに感謝申し上げます。現行プロジェクトも、残り1年弱となりますが、JICAは、日本センターが今後も両国のビジネス交流及び相互理解の架け橋であり続けられるよう、これからも最大限取り組んで参ります。引き続き皆さまのご支援を頂戴いたしたく、よろしくお願い申し上げます。

JICA モンゴル事務所

所長 田中伸一



ご挨拶



モンゴル・日本人材開発センター（以下、モンゴル・日本センター）は、2002年の開設以来、モンゴルの経済発展やモンゴルと日本の相互理解促進に貢献する多くの人材を輩出してきました。また、日本語教育の普及につきましても、たゆまず尽力してこられました。この場をお借りして、ダワードルジ所長をはじめとする関係者の皆様に心から御礼を申し上げます。

私ども国際交流基金（以下、JF）は、モンゴル・日本センターの4つの柱であるビジネス人材育成、日本語教育、相互理解促進、モンゴル人材キャリア支援のうち、特に日本語教育と相互理解促進について、ともに歩んで参りました。2002年から現在まで日本語専門家を派遣し、また2012年4月からは、「JF ランゲージセンター」として、モンゴル・日本センターと共同で「JF 日本語講座」を開始しました。JF 日本語講座では、日本語で何がどれだけできるかという「課題遂行能力」や相手の文化を理解し尊重する「異文化理解能力」の育成を重視した「JF 日本語教育スタンダード」に準拠した講座を開講しています。また、同講座ではJF 開発教材『まるごと 日本のことばと文化』を使用し、入門レベルから中級レベルまでのコースが開講されてきました。さらに、同センターでは、より上級者向けのコースや、夏季には子供向けの日本語講座など、鋭意、モンゴルにおける日本語学習者のニーズや日本語教育の状況に応じた様々な新たなコースの提供にも取り組んでいます。

JF 日本語講座は立ち上げから10年が経過して久しいところですが、この間、パンデミックによるオンライン化の対応や講座に関わる教師の育成等、関係者の多様なニーズに臨機応変に対応してきました。これまで間に培った様々な経験やノウハウを存分に活かし、今後も充実した講座を提供できればと願っています。

また、JF ランゲージセンターは、上記に加え、日本の年中行事を紹介する文化日本語講座や日本関連の書籍が多数蔵書される図書室の運営への協力も行っています。さらに、近年は就労現場に必要な日本語に対するニーズの高まりに伴い、日本語観光ガイドの養成講座や仕事で役立つ実践日本語講座等、その活動の幅を大きく広げています。加えて、上記のような対学習者支援だけでなく、モンゴルにおける日本語教育のさらなる普及を目指し、日本語専門家とともに初中等教育機関の日本語教師を対象とした教授法研修も実施しています。また、2019年に創設された在留資格「特定技能」制度で来日して日本で生活する方々のため



に JF が開発した新教材『いろどり 生活の日本語』について、日本語教師向けの教授法セミナーも実施しています。

JF は、今後もモンゴル・日本センターとともに、モンゴルの皆さんが日本語や日本文化に出会い、学ぶ機会を提供していく所存です。そして、モンゴル・日本センターが日本語教育や日本文化発信の拠点として、ますます発展され、モンゴルと日本の架け橋となる人材が一人でも多く輩出されることを心から祈念いたします。

独立行政法人国際交流基金
日本語第1事業部長 四ツ谷知昭



ご挨拶



2023 年は、実施中の JICA モンゴル・日本人材開発センタープロジェクトの 5 年間の協力期間の中で 4 年目にあたります。COVID-19 の影響も癒えほぼ通常のセンター活動に戻り、日本とモンゴルの間の往来もますます増え、プロジェクトも計画通り順調に推移している状況です。

私は、2023 年 6 月末に赴任しセンターの一員となりましたが、モンゴルの社会、経済の急速な進化と変化を肌で感じているところです。これらの動きに対応すべく、センターの業務の改善を引き続き進めていくとともに、いくつかの取り組みも同時に進めていく予定です。

まず、日本センタープロジェクトでは、日本国内の自治体、企業、大学等との連携を進めていますが、これを更に推進し、モンゴルから日本の大学への留学生、モンゴル人材の日本企業への就職、両国のビジネスマッチングなどの支援に更に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

また、モンゴルと日本とのつながりに加え、第三国の企業との連携を進めていく予定です。具体的には、モンゴル日本センターと同じ 9 か国 10 か所の日本センターとの連携です。例えば、キルギス、カザフスタン、ウズベキスタンなどの中央アジア諸国、そしてベトナムやカンボジアなど東南アジアの国々で展開している日本センターを通じて、これらの国々の企業とモンゴルの企業を結びつける取り組みを進めていきたいと考えています。これによりモンゴル企業の持っている大きなポテンシャルを更に発揮することができるのではないかと思います。

前述の通り、JICA の日本センタープロジェクトは多くの国々で実施中ですが、共通のテーマとして「日本センター2.0 構想」を推進中です。これは、日本センターがビジネス交流拠点となるべく、日本企業・現地企業を中心にビジネス関係者、支援機関、研究機関等オールジャパンの関係機関をつなぐプラットフォームとなることを目指すものです。モンゴル日本センターでも当地におけるネットワークの拠点として、これまでの取り組みを一層推進し、皆様に信頼され、期待されるセンターを目指していきたく思いますので、引き続きのご指導とご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

モンゴル日本人材開発センター
チーフアドバイザー (JICA 専門家) 井崎 宏

ビジネス課



I. 2023 年ビジネスコース実施報告

モンゴル日本人材開発センター（以下、「日本センター」）ビジネス課では、JICA（国際協力機構）の支援を受け、モンゴルのビジネス人材育成のために必要な事業を実施している。2023 年はコロナウイルスの状況が収まり経済が回復したことを認識させた年となった。経済回復により、受講者数や日本からモンゴルに事業展開する日本人経営者が増えている。

通常コースの経営者クラス 6 科目、管理職クラス 4 科目でそれぞれ 2 回実施し合計 20 回、基礎コース 8 科目で 9 回、専門コースをウランバートル市で 10 科目で 11 回、ザブハン県で 2 科目で 2 回、ビジネス公開セミナーを 4 科目で 4 回、企業内研修を 18 社で 35 回実施し、計 3,310 名が参加した。日本センターのビジネスコースの特徴は、経験豊かな日本人・モンゴル人講師が「実際のビジネスに役立つ知識」を教えることであり、受講生の 95%以上が研修内容を高く評価し、実際の実務に生かして成果を上げている。

1. ビジネス人材育成コース実施状態

1) 集団研修：ビジネスコース

① 通常コース（中小企業経営診断・指導実践講座）は日本センターの代表的コースであり、年に 2 回（秋期コースと冬期コース）行なっている。本コースの目的は経営の基本を学び、その能力を向上させることによって、モンゴルの中小企業育成ひいてはモンゴルの経済発展に貢献することである。

通常コースは、経営者クラスと管理職クラスに分かれて経営の基本となる 4 科目（経営戦略、マーケティング、財務管理及び人材管理）の講義を実施している。経営者クラスには事前講義として「日本的経営」と「コンプライアンス」という二つのコースを追加で実施している。



写真1-1. 通常コース経営者クラス
「経営戦略」コースの様子



写真 1-2. 通常コース 管理職クラス

今年の通常コースは春季と秋季の2回にかけて全面的に対面で実施された。2回の実施の4クラスに計127社の合計138名の企業経営者及び管理職が受講した。

講義の進め方は例年通りに理論と実践の両立をとった形で行われ、受講生は各自の企業の事例や直面する課題について活発的な議論を交わし、講師から学ぶだけでなく、受講生同士で学びあう環境が整ったコースだったといえる。さらに、受講生のレベルが年々著しく上がっているのが特徴だと日本人講師からコメントも上がっていた。

今年度から管理職クラスの「経営戦略」、「人事管理」コースを現地講師が担当したのが一つの特徴だった。現地講師が講義を担当することのメリットは、通訳の時間を省くことができるため現場で様々な問題に直面する管理職にとって非常に深く広い内容の知識を学ぶことが可能になるといえる。

モンゴル・日本センターは通常コースのほか、センター内で受講者のニーズに沿った専門コースや基礎コースを実施している。また、センター外で企業内研修とモデル企業課題解決プログラムなど様々なビジネスコースを実施している。

② より高度なビジネスの専門知識を学ぶ専門コースについては、「経営シミュレーション」、「店舗管理」、「人事管理」、「KPI」、「エクセル使ったビジネス分析」、「生産管理」などの専門コースや新しく「Global Value Chain」、「ビジネスプラン」、「展示会実務」などの専門コースを完全対面で実施し、合計335名が参加した。また特別に今年はザブハン県で「経営戦略」と「人事管理」専門コースを実施した。



写真2. 専門コースの様子



写真3. 「財務管理」専門コースの様子

弊センターのビジネスコースは実践的な内容で、経験豊かな日本人・モンゴル人講師が教えることであり、受講生の94%以上が研修内容を高く評価している。

③ 初心者向けの基礎コースについては、2016年から実施しており、2017年から土曜日に行うようになり、より多くの人々が参加できるようになり、休日にマネジメントの効果的な勉強ができるようになった。

今年度は、基礎コースをより効果的にすることを目的として、完全対面で以下のテーマで講座を実施した。「人事管理」、「店舗管理」、「5S運動」、「財務管理」、「生産管理」、「プロジェクト・マネジメント」、「日本的経営」、「経営戦略」などのコースを順調に実施した。その中で財務管理コースを2回、その他の科目をそれぞれ1回実施し、8科目合計9回のコースに298名が参加した。



写真4. 「人事管理」基礎コースの様子



写真5. 「店舗管理」基礎コースの様子

2. 個別研修：企業内研修、モデル企業課題解決型プログラム

ビジネス環境の変化と競争の激化を受け、多くのモンゴル企業において組織戦略に基づく企業全体の強化、全従業員の知識・能力向上を図る動きが目立ってきている。このため、会社全体で積極的に研修に取り組み、社内で統一した知識を得たいとの希望が増加している。このようなニーズに応えるため、日本センターでは企業内研修とモデル企業課題解決型プログラムを実施し、モンゴル企業の経営合理化と競争力強化に力を入れている。



写真6. Apollo Building Service LLC における「5S 活動」研修の様子

企業内研修では、JICA の専門家と現地講師が会社の依頼により、企業現場の課題を解決するために研修を実施している。2023 年には 20 社で 39 回研修を実施し、計 872 名が参加した。2023 年には Baigaliin chuluun hiits 社-11 回、MYK 社-7 回、ENC group-3 回、Tumen Shuvuut 社-3 回といった 1 社で頻繁に研修を実施し、研修を継続的に実施したことが大きな特徴であった。

また、研修前に講師、企業との事前打ち合わせを実施し、会社のニーズと内容を聞いたうえで研修を実施したので去年に比べて満足度が 4%上がり、97%の評価になった。

モデル企業課題解決プログラムに関しては引き続き 2022 年～2023 年度の参加企業 2 社、新規で 1 社が追加され、合計 3 社の参加となっており、各企業の直面する課題



写真7. Baigaliin chuluun hiits 社における研修

を解決すべく研修やコンサルティングを実施している。

モデル企業のプログラムに参加する企業向けに共通して全社レベルの戦略の策定、それに基づいた各部門の戦略、さらに人材開発、その中で中間管理職の研修及び開発というテーマの下で研修を行っている。このような内容はモンゴルの企業に直面しているニーズに沿ったテーマであるとみられる。



写真8. Premium Palace 社にて「リーダーシップ」研修の様子

3. 本邦研修

2023年の10月に日本の北九州市において本邦研修を実施し、通常コース修了生16名、現地講師4名、モンゴル・日本センターの職員2名、計22名が参加した。

本研修は、通常コースで学習した内容を日本の現場でより深く学び、帰国後に自社の経営改善に役立てることを目的として2003年以降実施している。



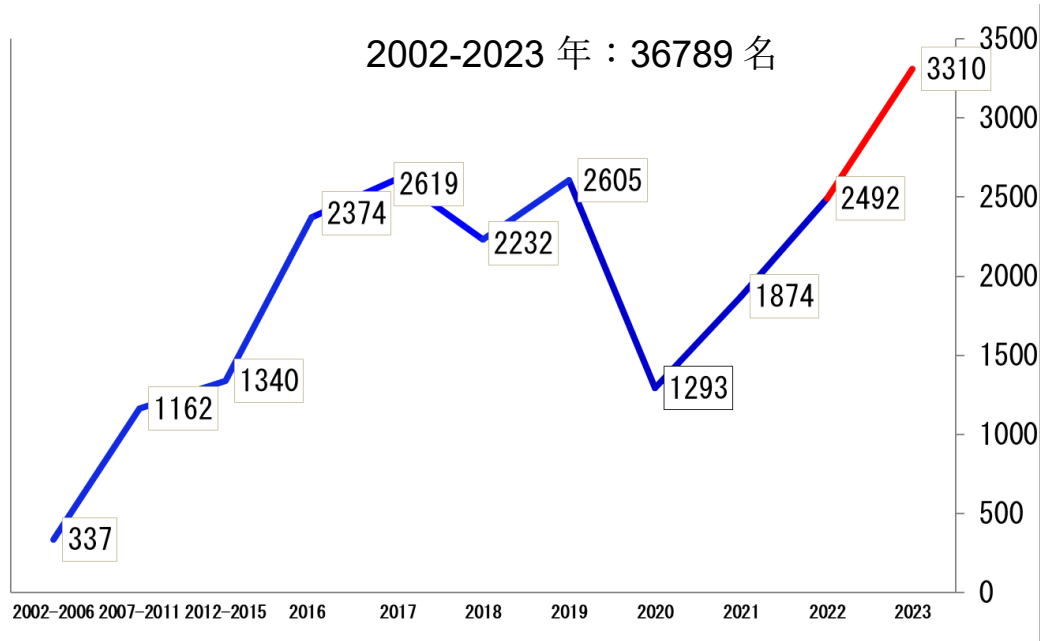
写真9. トヨタ自動車九州株式会社における訪問の様子

の講師が参加し、講師たちが企業訪問後に見学したことと学んだことに関する振り返りを行い、修了生と現地講師がお互いに学びあった効果的な研修となった。

研修期間にコースリーダーとして関西大学の後藤健太教授が指導したことによって理論と実践的内容を含めた研修になった。トヨタ自動車九州株式会社、パナソニックマーケティングスクール、北九州市タカミヤ環境ミュージアムなどの12社を訪問した。また、本研修の特徴は現地講師の育成を目的とし4名

ビジネス人材育成事業の数値指標

グラフ 1. 2002-2023 年のビジネス育成事業参加者数



グラフ 2. 2018-2023 年ビジネスコース質的指標

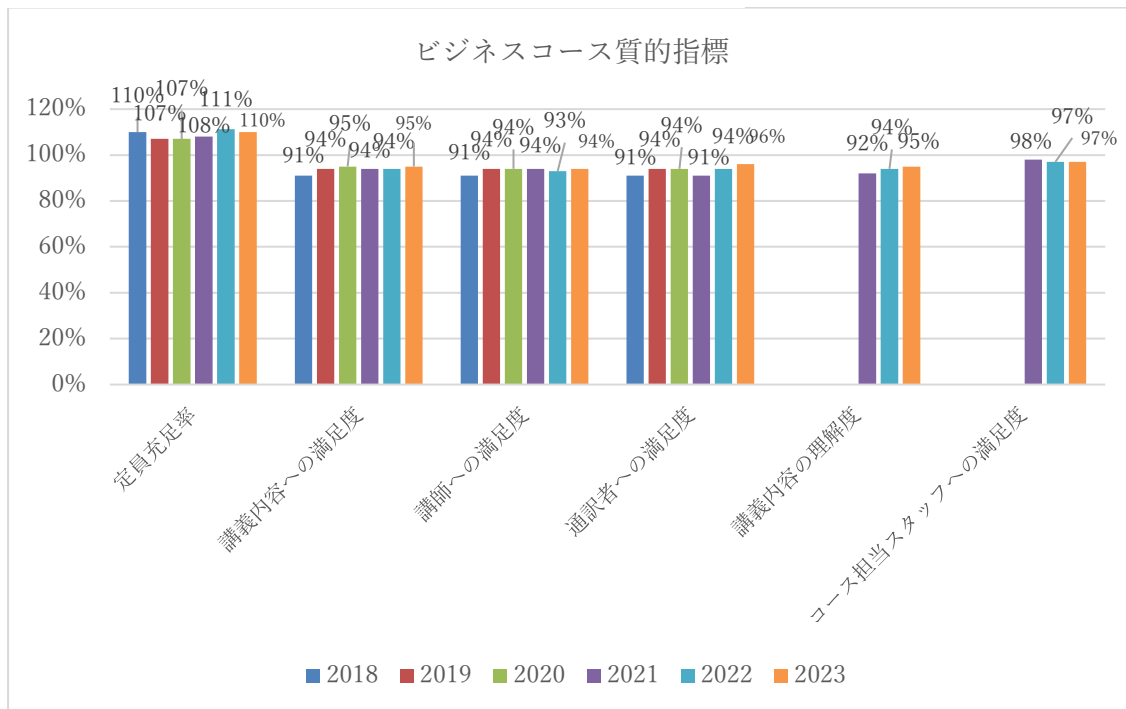


表1: 通常コース 経営者クラス 22期生

No.	科目名	期間	対象者	内容	講師名	参加者数
1	日本的経営	2023.03.13-14	中小企業経営者及び幹部	<ul style="list-style-type: none"> ・ President Identityとは ・ 社長のあり方改革 ・ コロナ禍で日本人が気づいたこと ・ 経営の3つの基本 	山本亘苗	39
2	コンプライアンス	2023.03.16-17		<ul style="list-style-type: none"> ・ なぜコーポレート・ガバナンスが重要なのか？ ・ コンプライアンスとコーポレート・ガバナンスの最近の動向 ・ コーポレート・ガバナンスの強化・改善方法 	藤本和久	
3	経営戦略	2023.03.20-25		<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業上位目標とビジネス環境分析 ・ BSCの視点によるSWOTベースの経営戦略、ビジネス・ドメイン、STP、PLC、PPM ・ 経営戦略とリンクした事業戦略 ・ 経営戦略とKPIベースの組織業績管理 ・ 中小企業向け経営戦略と事例 	河口真一郎	
4	人事管理	2023.04.17-22		<ul style="list-style-type: none"> ・ 人事に関わる問題意識 <ul style="list-style-type: none"> - 人事の課題 - 計画経済と市場経済の人事 ・ 経営戦略と人事戦略 <ul style="list-style-type: none"> - 組織能力の分析 ・ 出口管理 <ul style="list-style-type: none"> - 離職とリテンション ・ 人材像の明確化と組織デザイン ・ 採用 <ul style="list-style-type: none"> - 採用戦略 - 採用広告 ・ 能力開発、組織開発 ・ 人事基盤制度 	土橋隼人	
5	マーケティング	2023.05.15-20		<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネス環境の変化 ・ マーケティングの現代動向 ・ 組織においてマーケティングの重要性 ・ STP戦略 (Marketing戦略の中心となるSegmentation, Targeting, Positioning) ・ Marketing Mix (4P) ・ Service Marketing (Marketing Mixに追加される3つの要素: Evidence, Process) ・ Digital Marketing (進化するInternetを使った販売、モバイルを使った新ビジネスの) ・ 市場環境分析からMarketing戦略決定まで 	上東幸次、 Ch.Batbaatar	

6	財務管理	2023.06.05-10	<ul style="list-style-type: none"> ・財務諸表と財務分析 ・財務分析方法 ・財務諸表の不正箇所の見つけ方 ・管理会計 ・経営改善のための財務分析 ・事業計画の策定とカンパニーロードマップ 	竹口義弘	
---	------	---------------	--	------	--

表2: 通常コース 管理職 クラス 22期生

No.	科目名	期間	対象者	内容	講師名	参加者数
1	経営戦略	2023.03.27-31	中小企業 中間管理職	<ul style="list-style-type: none"> ・企業上位目標とビジネス環境分析 ・BSCの視点によるSWOTベースの経営戦略、ビジネス・ドメイン、STP、PLC、PPM ・KPIをベースにした組織業績管理戦略 ・経営戦略とリンクした事業戦略 	河口真一郎	32
2	人事管理	2023.04.24-28		<ul style="list-style-type: none"> ・離職の構造 ・人材管理の体系 ・人材開発 <ul style="list-style-type: none"> - 能力開発の意味 - 入社オリエンテーション - OJT - Off-JT ・キャリア開発 <ul style="list-style-type: none"> - キャリア開発につながる配置 ・コミュニケーションスキル ・コンセンサスによる意思決定 ・リーダーシップ ・組織マネジメント <ul style="list-style-type: none"> - 組織文化 - 組織変革 ・人事評価とフィードバック 	土橋隼人	
3	財務管理	2023.05.08-12		<ul style="list-style-type: none"> ・財務意志決定（貨幣の時間的価値、長期的・短期的財務意思決定） ・財務分析（財務諸表と財務諸表構造、連続性、資金回転、使用、収益性、支払い力、生産分析） ・コスト、生産、利益関連分析（破断点、目標収益、境界確定、販売ミックスと費用、 	Ts.Bayanmunkh	

			生産と収益の関連、費用構造と財務レバレッジ分析)		
4	マーケティング	2023.05.22-26	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス環境の変化 ・マーケティングの現代動向 ・組織においてマーケティングの重要性 ・STP戦略(Marketing戦略の中心となるSegmentation, Targeting, Positioning) ・Marketing Mix (4P) ・Service Marketing (Marketing Mixに追加される3つの要素: Person, Physical Evidence, Process) ・Digital Marketing (進化するInternetを使った販売、モバイルを使った新ビジネスの台頭) ・Product Coneを使った商品企画策定 	上東幸次、 Ch.Batbaatar	

表3: 通常コース 経営者クラス 23期生

No.	科目名	期間	対象者	内容	講師名	参加者数
1	日本的経営	2023.09.11-12		<ul style="list-style-type: none"> ・事業環境の変化 <ul style="list-style-type: none"> - VUCAの時代 - SDGsの世界的取組 ・日本的経営の特色 <ul style="list-style-type: none"> - 経営者の役割、経営理念、顧客志向、組織文化とリーダーシップ - 事業戦略、人材育成 	出口智	
2	コンプライアンス	2023.09.13-14		<ul style="list-style-type: none"> ・なぜコーポレート・ガバナンスが重要なのか? ・コンプライアンスとコーポレート・ガバナンスの最近の動向 ・コーポレート・ガバナンスの強化・改善方法 	藤本和久	
3	経営戦略	2023.09.18-23		<ul style="list-style-type: none"> ・企業上位目標とビジネス環境分析 ・BSCの視点によるSWOTベースの経営戦略、ビジネス・ドメイン、STP、PLC、PPM ・経営戦略とリンクした事業戦略 ・経営戦略とKPIベースの組織業績管理 	河口真一郎	

				・中小企業向け経営戦略と事例		35
4	マーケティング	2023.10.09-14		<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングとは？マーケティングとブランディング ・マーケティングプロセスの全体像 ・市場調査、STP分析 ・ペルソナマーケティング、4P/4C ・デジタルマーケティングとは ・トリプルメディア ・カスタマージャーニーマップ ・インフルエンサーマーケティング ・インバウンド・コンテンツマーケティング ・KGI/KPI設計・データ分析 ・システム・データベース 	小木曾尚志	
5	人事管理	2023.11.06-11		<ul style="list-style-type: none"> ・人事に関わる問題意識、出口管理 ・計画経済と市場経済の人事 ・経営戦略と人事戦略 ・組織開発 ・人材像の明確化、採用 ・On boardingプログラム ・能力開発 ・企業文化 ・人事基盤制度 	山崎京子	
6	財務管理	2023.11.20-25		<ul style="list-style-type: none"> ・財務諸表と財務分析 ・財務分析方法 ・財務諸表の不正箇所の見つけ方 ・管理会計 ・経営改善のための財務分析 ・事業計画の策定とカンパニーロードマップ 	竹口義弘	

表4: 通常コース 管理職 クラス 23期生

No.	科目名	期間	対象者	内容	講師名	参加者数
-----	-----	----	-----	----	-----	------

1	経営戦略	2023.09.25-29	中小企業 中間管理職	<ul style="list-style-type: none"> ・企業上位目標とビジネス環境分析(SWOT)、企業の持続的な発展の要素 ・BSCの視点によるSWOTベースの経営戦略、ビジネス・ドメイン、STP、PLC、PPM ・KPIベースの組織業績管理 ・経営戦略とリンクした事業戦略 	N.Batdelger
2	マーケティング	2023.10.16-20		<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングとは？マーケティングとブランディング ・マーケティングプロセスの全体像 ・市場調査、STP分析 ・ペルソナマーケティング、4P/4C ・デジタルマーケティングとは ・トリプルメディア ・カスタマージャーニーマップ ・インフルエンサーマーケティング ・インパウンド・コンテンツマーケティング ・KGI/KPI設計・データ分析 ・システム・データベース 	小木曾尚志
3	人事管理	2023.11.13-17		<ul style="list-style-type: none"> ・自社の人事課題の明確化 ・人事管理の変更について ・人事管理とは ・企業文化と人事管理の関連性 ・人事計画 ・人事採用 ・労使関係の基本(労働法の概要)、労働安全衛生 ・業績管理 ・給与、報酬、福利厚生 ・人材開発 ・従業員エンゲージメントの向上 ・報連相の向上 ・出口管理 ・自己認識 ・リーダーシップ ・能力開発(コミュニケーション力、聴講、共感、EQ,コーチング) 	D.Dashmaa

4	財務管理	2023.11.27-12.01	<ul style="list-style-type: none"> ・財務意志決定（貨幣の時間的価値、長期的・短期的財務意思決定） ・財務分析（財務諸表と財務諸表構造、連続性、資金回転、使用、収益性、支払い力、生産分析） ・コスト、生産、利益関連分析（破断点、目標収益、境界確定、販売ミックスと費用、生産と収益の関連、費用構造と財務レバレッジ分析） 	Ts.Bayanmunkh	
---	------	------------------	--	---------------	--

表 5: 基礎コース

No.	科目名	期間	対象者	内容	講師名	参加者数
1	人事管理	2023.02.03	新入社員、スタートアップ起業家	<ul style="list-style-type: none"> ・人事管理の基礎 ・人事管理の基本的な機能（計画、採用、評価、育成） ・職場におけるリーダーシップ、モチベーション向上 	D.Dashmaa	36
2	店舗管理	2023.03.03		<ul style="list-style-type: none"> ・商業施設型店舗 ・店舗施設計画（外装計画、スペース計画） ・商品管理（商品性、商品陳列、コーディネート陳列） 	J.Gansukh	41
3	5S 活動	2023.04.15		<ul style="list-style-type: none"> ・5S とは何か？なぜ必要なのか？どのように実施するか？ ・5S 活動実践（整理、清楚、整頓）、グループ発表 ・見える化 	D.Dolgormaa	39
4	財務管理	2023.05.06		<ul style="list-style-type: none"> ・財務管理の概要 ・財務管理者による意思決定 ・投資意思決定 ・投資の必要性、段階的な決定 ・キャッシュ・フローの計算 ・貨幣の時間的価値 ・プロジェクトの評価方法 	V.Danaasuren	27

			<ul style="list-style-type: none"> ・資本コスト計算 ・収益のプロジェクトの選択方法 		
5	生産管理	2023.05.13	<ul style="list-style-type: none"> ・TPSの基礎 ・トヨタの7つの無駄 ・標準化 ・改善 ・フィッシュボーンダイアグラム ・QC7つ道具 ・VSM ・TPM 	N.Batchuluun	38
6	プロジェクトマネージャー	2023.06.17	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトとは ・プロジェクトの段階 ・プロジェクト管理、方法 ・リスク管理 	B.Munkhtsog	27
7	経営戦略	2023.09.16	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの現状（影響、技術の発展） ・経営の基礎 ・企業、経営、管理職員 ・計画、構成 ・リーダーシップ、管理 ・経営戦略（現状分析、戦略策定・実施・評価） 	D.Enkh-Otgon	30
8	日本的経営	2023.10.21	<ul style="list-style-type: none"> ・経営の基礎 ・日本的経営の特徴 ・生産ピラミッドと5Sの基礎 ・モンゴルの経営の特徴 ・生産効果をアップさせるための人事を育成 ・日本的経営の実務例 ・日本企業の経験から学ぶ 	J.Khishigjargal	37
9	財務管理	2023.11.18	<ul style="list-style-type: none"> ・財務管理の概要 ・財務管理者による意思決定 ・投資意思決定 ・投資の必要性、段階的な決定 ・キャッシュ・フローの計算 	V.Danaasuren	23

			<ul style="list-style-type: none"> ・貨幣の時間的価値 ・プロジェクトの評価方法 ・資本コスト計算 ・収益のプロジェクトの選択方法 	
298				

表 6: 専門コース

No.	科目名	期間	対象者	内容	講師名	参加者数
1	経営シミュレーション	2023.01.16-18	企業経営者・幹部、マネージャー	<ul style="list-style-type: none"> ・サプライチェーン ・ビールゲーム ・BG21 経営シミュレーション ・財務諸表の関連性 	N.Batdelger	22
2	店舗管理	2023.01.23-27	店舗、レストランなどのサービス業の企業経営者・幹部、マネージャー	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客管理 ・増販戦略 ・販促・催事 ・経営数値 ・事業計画 ・POP 広告 	上東幸次	40
3	人的資源管理	2023.04.03-07	企業経営者・幹部、人事マネージャー	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略的人的資源管理 ・人事基盤制度 ・評価・報酬・採用 ・能力開発・育成 ・組織開発 	山崎京子	41
4	ザブハン県において研修	経営戦略 2023.05.08-11	ザブハン県の企業経営者・幹部、マネージャー	<ul style="list-style-type: none"> ・会社の最上位目標、事業環境、経営戦略 ・ビジネスドメイン、ビジネスモデル、STP、PLC、PPM ・成長、多角化戦略 競争優位戦略 ・競争力のあるポジショニング戦略 	N.Batdelger	15
		人事管理 2023.05.22-25		<ul style="list-style-type: none"> ・人事管理の体制と状況の把握 ・モチベーション ・従業員の研修・育成 ・中間管理職の人事役割 	D.Dashmaa	15

5	財務管理	2023.06.12-16	企業経営者・幹部、マネージャー、会計士	<ul style="list-style-type: none"> ・財務諸表と資金 ・財務分析 (ROE, PBR, CVP 分析、一限界利益分析) ・投資意思決定の評価 ・経済的効果の測定 ・貨幣の時間的価値 ・NPV (正味現在価値) 法 ・NPV 法による投資意思決定の評価 	竹口佳宏	26
6	KPI 管理	2023.06.19-23	KPI 導入中及び検討中企業の経営者、財務担当者	<ul style="list-style-type: none"> ・人と組織を効果的に管理・運用する KPI 管理 ・経営 (戦略/ビジネス・プロセス/業務プロセス) の可視化ツールとしての KPI 管理 ・戦略的人的資源管理・開発の可視化ツールとしての KPI 管理 ・KPI 管理を導入しているモンゴル企業の事例 	河口真一郎	36
7	エクセルを使ったビジネス分析	2023.06.26-28	企業経営者・幹部、マネージャー、会計士	<ul style="list-style-type: none"> ・財務モデリング基礎技術 ・財務モデルの設計技法 ・利益予測モデルと分析技法 ・財務諸表を用いた財務モデリング技法 ・財務モデルの作成 ・損益分岐点分析 ・企業価値の評価技法 ・企業価値評価モデルの作成 	N.Batdelger	34
8	Global Value Chain	2023.08.21-25	産業分野に興味のある方、製品の輸出を考えている起業家の方、国際経済に興味のある方	<ul style="list-style-type: none"> ・「東アジアの奇跡」と日本—東アジアの工業化の経験から学ぶ ・グローバル経済のダイナミズムとグローバル・バリューチェーン (GVC) ・グローバル経済の中のモンゴル ・産業の特性を理解する—垂直統合型 (VIS) と国際分業型 (IFS) ・ビジネスと持続可能性 	後藤健太	23

9	ビジネスプラン	2023.09.13-15	一般	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスプランの重要性と目的 ・なぜビジネスプランが必要か? ・ビジネスプランの構成要素 ・ビジネスの概要とビジョン ・市場・競争の分析 ・顧客ニーズの特定 ・儲けの構造を理解する ・財務計画・予算案 	出口智	31
10	展示会実務	2023.10.09-13	一般	<ul style="list-style-type: none"> ・FoodExpo 2024 ・展示会出展から商品販売までの一連のプロセス及び効果的な取り組み手法 ・ターゲット市場の調査 ・市場構造・販売チャネル分析 ・自社商品をアピールする効果的な手法 ・「5ステップ・マーケティング」手法 ・展示会出展、出展後、商品販売に至るまでの要チェックポイント 	平川雅一	19
11	生産管理	2023.12.04-08	製造業の 経営者、 管理職、 工場長	<ul style="list-style-type: none"> ・生産管理の基礎知識 ・見える化 ・PDCA サイクル ・品質管理・標準化 ・安全衛生管理 ・QC7 つ道具 ・5S 活動 ・マネジメント力向上 	高安光晴	35
						337

表 7: モデル企業課題解決型プログラム

No.	企業名	事業分野	プログラム内容	期間

2023-2024年度	1	Premium Palace社	ホテル・レストラン	<ul style="list-style-type: none"> 従業員満足度の定期的評価による満足度の維持向上及び維持 全社レベルの経営戦略の策定 	2023.04-2024.06
	2	Caffe bene Mongolia社	カフェ・食品製造	<ul style="list-style-type: none"> 人事制度の改善、従業員満足度の定期的評価による満足度の維持向上 生産管理の向上 	2023.11 - 2024.06
	3	Top donj社	カシミヤ・ウール製品製造・販売	<ul style="list-style-type: none"> 戦略的な目標設定、ビジネス環境分析 SWOTベースの全社的経営戦略を策定、SWOTベースの全社戦略にリンクしたCSF、SGKI、KPIの設定、課、チーム、個人のKPIに展開 	2023.09-2024.06

表 8: 企業内研修

No.	企業名	テーマ	期間	講師	受講者数
1	スフバートル地区第2番幼稚園	5S 活動	2023.01.28	D.Dolgormaa	16
2	Baigaliin chuluun hiits 社	5S 活動 - Follow up	2023.1.19	D.Dolgormaa	8
3	Baigaliin chuluun hiits 社	人事管理	2023.2.9,3.16,4.14,5.13,8.7,8.25,11.28,12.19	D.Dashmaa	154
4	科学アカデミー	人事管理	2023.12.16,17	D.Dashmaa	16
5	Baigaliin chuluun hiits 社	経営戦略	2032.3.23,24	河口真一郎	12
6	ENC group 社	KPI	2023.3.30	河口真一郎	4
7	Apollo building service 社	5S 活動	2023.4.25-27	D.Dolgormaa	58
8	Jur Ur 社	人財を育てる企業文化とプロジェクトマネジメント	2023.4.26	大西義文	50
9	ENC group 社	人事管理	2023.4.27	D.Dashmaa	5
10	ENC group 社	5S 活動	2023.5.2	D.Dolgormaa	21
11	Baigaliin chuluun hiits 社	TPS	2023.5.3	N.Batchuluun	24

12	Sky trading 社	店舗管理	2023.5.8	J.Gansukh	30
13	Tumen Shuvuut 社	5S 活動	2023.5.13	D.Dolgormaa	138
14	Abtema 社	5S 活動	2023.5.30	D.Dolgormaa	21
15	Abico 社	人事管理	2023.6.8	D.Dashmaa	13
16	Premium Palace 社	KPI	2023.6.23	河口真一郎	18
17	MYK 社	人事管理	2023.6.30,10.27,12.12	D.Dashmaa	23
18	Byatskhan Mongol 幼稚園	5S 活動	2023.8.28	D.Dolgormaa	40
19	MSL	KPI	2023.09.19,20	河口真一郎	18
20	KhaanZaa service 社	リーダーシップ、人事管理	2023.09.25, 11.03,11.30,12.15	D.Dashmaa	30
21	Titan Grid 社	5S 活動	2023.09.25	D.Dolgormaa	22
22	MYK 社	経営戦略	2023.10.18,11.09,11.23,12.21	N.Batdelger	19
23	MSM group	5S 活動	"2023.11.28,12.05, 12.07,12.12"	D.Dolgormaa	66
24	Jagar International 社	店舗管理	2023.12.15	J.Gansukh	18
25	Platinum Land 社	コンプライアンス	2023.12.14	S.Sanaser	7
					831

表 9: 特別セミナー、ビジネス公開セミナー

No.	事業名	期間	講師	参加者数
1	キャリアデザイン	2023.4.8	山崎京子	76
2	人材を育てる組織文化とプロジェクトマネジメント	2023.4.22	大西義文	51
3	おもてなし	2023.5.20	上東幸次	123
4	キャリアデザイン	2023.11.11	山崎京子	70

		D.Dashmaa	
			320

表 10: 本邦研修参加者リスト

1. 通常コース修了生

No.	名前 ^{[[H1]]}	職種	企業名
1	T.Ariunjargal	社長	Arga Hiits Od 社
2	P.Tsolmon	業務担当社長	Bitumina Mongolia 社
3	M.Gantumur	社長	Ard Furniture 社
4	D.Sumiyatsetseg	社長	Winter Garden 社
5	G.Gantuya	創立者、財務部長（人事）	G&G International 社
6	D.Khishigdelger	社長	RTT 社
7	Ch.Oyunchimeg	社長	Dumun-Erdene 社
8	A.Erdenetuya	総会計士	Gobi Khangai Mebel 社
9	L.Erdenechimeg	社長	Ez Leather Craft 社
10	B.Zaya	財務部長	Interscience 社
11	Ts.Batbaatar	副社長	7010 社
12	T.Batbayr	社長	Hurgobi(Summit 社)
13	B.Oyunchimeg	社長	Monsuu 社
14	B.Ganzam	社長	Vitafit Distribution 社

2.

No.	名前	職種	企業名
15	Kh.Bolormaa	部長	Urban Business Group
16	B.Bayasgalan	副社長	Diasys Mongolia 社

3. 現地講師

No.	名前	職種	企業名
17	D.Dashmaa	現地講師	モンゴル・日本センター
18	N.Batdelger	現地講師	モンゴル・日本センター
19	J.Gansukh	現地講師	モンゴル・日本センター
20	B.Munkhtsog	現地講師	モンゴル・日本センター

4. モンゴル・日本センター

No.	名前	職種	企業名
21	E.Sukh-Erdene	総務課主任	モンゴル・日本センター

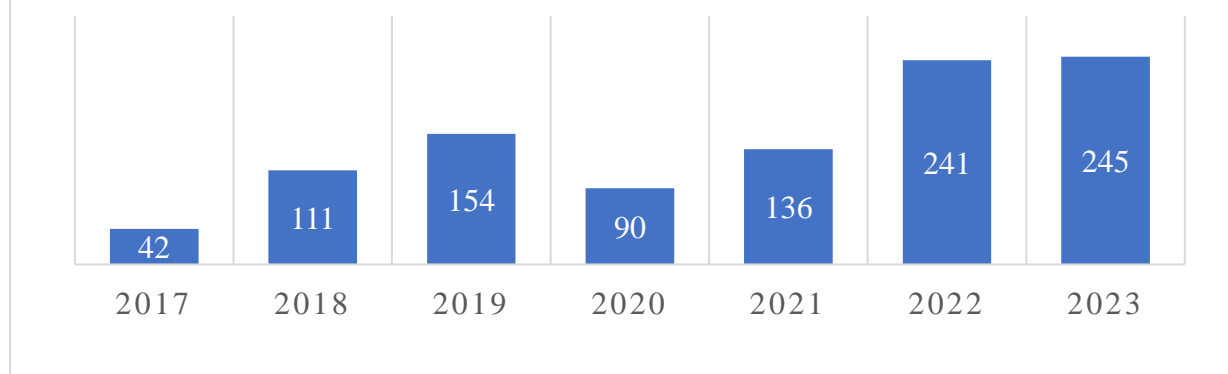
II. 日本とモンゴルのビジネス交流促進

1. ビジネス交流支援事業は拡大し、より多くのプロジェクトや事業と協力した。

ビジネス交流支援事業は事業開始から 7 年が経過しようとしている。今年は、事業が通常通りの営業となっており、来訪者人数も安定している。ビジネス交流事業でサービスを行った人数はモンゴル側・日本側ともに以前のコロナ禍のときに比べて増加し、245 人にサービスを提供した。モンゴルと日本のビジネス交流は強化され、より多くの仕事を実施し、16 種類の事業を成功裡に実施した。また、外国人材の活用の問合せも前年に比べると多くなっている。両国のビジネスや人的交流が盛んになってきており今後も拡大し、他の日本センターとの連携も拡大する可能性が感じられる。今年は初めての取り組みとして、MOJC のビジネス通常コース修了企業の「ABICO」社がカザフスタンの市場に進出したいという希望を受けて、カザフスタン日本センターと同社の提携に協力し、3 社で契約を締結した。将来的にはカザフスタン日本センターが修了企業 ABICO 社とカザフスタンのその他の企業とつないでいくことを計画している。これが今年の特筆すべき事業のひとつである。今後は他の国々に所在する日本センターと協力をさらに広げたいと考えている。

ビジネス交流事業では、情報の発信や、認知の向上を測る指標として面談者数¹を記録している。

グラフ 3. 2017 から 2023 年までの面談数の比較



¹ここでいう面談者数とは、対面、若しくはオンラインによる手段で、相談や問い合わせに応えたり、受託事業に関する企画・運営に係る会議を行った数のことである。

また、2023年にJICA草の根技術協力事業案件、民間連携事業案件その他公的委託事業案件の実施を支援した。以下表2023年に実施した事業内容参照。

表 11. 2023年に実施した事業内容

No.	事業名	
1	JICAが関連する事業 (有料)	一般社団法人 交通環境まちづくりセンター AI、IoT技術提供によるバス事業改善プロジェクト 草の根事業・ウランバートル市（十勝バス、ユニトラド）
		渡辺パイプ株式会社（農業分野） モンゴル国における投資・ビジネス環境調査
		茨城県 外国人材支援センター（オンラインセミナー）
		オリエンタルコンサルタンツ（脱炭素社会実現のための都市間連携事業委託業務）
		ICT ビジネスツアー
		株式会社エアロネクスト（モンゴル国ドローン活用による医療品の配送網構築のためのニーズ確認調査）
2	JICAが関連する事業 (無料)	MONJA 2023
		モンゴル・日本ビジネスフォーラム
		モンゴル医療関連ビジネスセミナー
3	民間連携事業 (有料)	Noman 株式会社
		日本商工会議所
		静岡県“有限会社 小沢テント”（農産物の貯蔵倉庫展開における事前調査事業）
		東亜グラウト工業株式会社（水の浄化、水処理） 案件化調査

4	その他公的事业 (有料)	環境省 低炭素社会実現に向けた都市間連携事業 札幌市、ウランバートル
		在モンゴル日本大使館、OKA & BAYAR 法律事務所（モンゴル法律セミナー）
5	マッチング事業	ビジネス通常コース終了企業”Abico”社のカザフスタン市場進出支援（カザフスタン・日本センター終了企業にAbico 社を紹介）

有償で提供している日本センターのビジネス交流支援事業による収入においても過去最高を記録した。これらは単純に渡航者が増えた事だけが原因ではなく、ビジネス交流事業の地道な広報活動の成果や、質の向上など様々な要因が複合的に組み合わさった結果である。ビジネス交流支援事業の今後の課題はモンゴル・日本ビジネス交流の場を継続的に提供し、公的事业以外にも民間同士での交流を更に促進すること。また、各日本センターと連携した活動を行う予定。

2. 「日本・モンゴルビジネスフォーラム 2023」を開催した

2023年8月18日に「日本・モンゴルビジネスフォーラム 2023」をJICA、モンゴル・日本人材開発センター、モンゴル経済・開発省、モンゴル商工会議所、日本帰国留学生の会JUGAMO共催でモンゴル商工会議所の大会議場にて開催した。本フォーラムでは両国間の輸出振興、貿易・投資促進、SDGsビジネス、ICT・デジタル産業振興、イノベーション等をテーマに日本とモンゴル側の企業や団体にて、パネルディスカッションや発表が行われ、日本から約100名、モンゴルから約300名が参加した。

主催者講演では、モンゴル・日本センターJICAビジネス交流支援専門家の中村功専門家が“日本企業のモンゴルにおけるビジネスチャンス”について発表した。

（以下：ビジネスフォーラム時の写真）



写真10-1. ビジネスフォーラムの様子



写真10-2. ビジネスフォーラムの様子

Ⅲ.コラム

1. モンゴル・日本センタービジネス交流支援事業×JICA 民間連携事業の好事例

2023年9月に、JICAが民間連携事業として実施している『中小企業・SDGsビジネス支援事業』の『ニーズ確認調査』に採択された日本の企業である株式会社エアロネクストが中心となり、モンゴルにおいて、輸送用ドローンに関するシンポジウムが開催された。11月には実際に、ウランバートル市内の国立第2病院から、モンゴル・日本教育病院の間、往復約10キロの道のりを輸血用の血液を輸送用ドローンで輸送を行い、当日は非常に気温が低い環境でドローンが飛行するには厳しい条件下であったにも関わらず無事テスト飛行を完了した。現在は、モンゴルでのビジネス化に向けて計画を立案している状況。

2022年5月にエアロネクスト社の担当者がモンゴルを訪問した際にモンゴル・日本センターを訪れ、ビジネス交流支援事業の問合せをした際にこの案件は動き出した。ビジネス交流支援事業からは多くの関心を持つ可能性のある企業やキーマンとなる人物の紹介を行い、『モンゴルビジネスの水先案内』を行った。その後、担当者の懸命な人脈づくりや実行可能性調査の結果から2022年に公示された『中小企業・SDGsビジネス支援事業』に応募することを決めた。公示までに数回に渡りモンゴル・日本センターとしても案件づくりにアドバイスを行い、結果無事採択に至った。

『中小企業・SDGsビジネス支援事業』は、一般的な補助金や助成金といった仕組みとは違い、日本の企業の皆様方の技術・サービスをJICAが支援を行っている国の課題解決のためにJICA事業としてビジネスの展開を支援する仕組みとなっている。モンゴル・日本センターで実施されているビジネス交流支援事業は、『モンゴルビジネスの水先案内』を行うことしかできないが、この事業を多くの皆様に利用いただきこの様な好事例をこれからも生み出したいと切に願っている。



写真11-1. 輸送用ドローン



2. 専門コースを初めてザブハン県で開催した

写真11-2. 輸送用ドローンに関するシンポジウム

2020年からビジネスコースをオンラインで開催することによって地方からの参加者が増えている。今回2019年の「通常コース」修了生のZagasan Nud-Zagastai社の依頼でザブハン県ウライスタイ市の企業の経営者に2科目で専門コースを開催した。

第1回目の科目として「経営戦略」コースをモンゴル・日本センターのN.Batdelger講師が指導した。その次に「人事管理」コースをモンゴル・日本センターの現地講師D.Dashmaa講師が指導した。本講義を人事管理の重要性、人事機能、リーダーシップ、企業文化などの内容で4日間理論とグループワークで実施した。

コースに9社の16名が参加し、マネジメントの能力を上げただけでなくコースのグループ演習を通してザブハン県の発展のための意見交換を行った。



写真12. ザブハン県での「人事管理」コースの様子



写真13. ザブハン県でのコースに参加された経営者

3. 「Global Value Chain」新しい専門コースが追加された

専門コースを関西大学経済学部の後藤健太教授のもとで実施した。

本コースでグローバル経済、バリューチェーン、ビジネスと持続可能性、日本及び東アジアの産業発展の特徴から学ぶなどの内容で最近の世界経済の移行、ビジネスチャンスなどの理解を深め、今後モンゴルでの産業発展に向けて意見交換をした。

本コースは初めて開講された新コースのため参加者の期待が高く、内容も充実し、興味深かったため期待に答えた効果的な研修だった。



写真14. 関西大学経済学部の後藤健太講師



写真15. 「Global Value Chain」専門コースの様子

4. “ICT・デジタルビジネススタディーツアー in モンゴル” 開催

JICA の IT ビジネス支援事業の一環として 2023 年 6 月 5 日～11 日にかけてモンゴルで開催された ICT ツアーの運営をモンゴル・日本センターが担当した。ツアーにはモンゴルへのビジネス進出に関心のある企業及び法人の方や中小企業・SDGs ビジネス支援事業の応募を検討している企業・法人の方及び自治体及び関連団体、大学・高専などの教育機関、金融機関、メディア関係者合計 19 名が参加した。

ツアー内容は ICT EXPO MONGOLIA 2023 を視察しモンゴルの IT 業界の現状や今後の展開を把握する、DX Cup Mongolia コンテストの決勝戦、高専や大学などを訪問し、モンゴルの IT 業界の将来の人材と交流する、モンゴルの ICT・デジタル企業及び ICT 関連施設の視察、ネットワーキングなどのスケジュールが含まれていた。さらに、ツアーの一環としてモンゴルの商業銀行との共催でビジネスネットワーキングイベントを開催し、イベントにはモンゴルの中小企業の代表者が参加した。一方、ツアー参加者の 4 社の代表がモンゴルの大学生向けのジョブイベントを開催した。モンゴル・日本センターで開催された当イベントには合計 162 名の学生が参加し、日本の IT 企業に就職するにはどのようなスキル・知識など貴重な情報を入手した。

今回のツアーに参加した企業の代表者から「モンゴルに関するイメージが変わり、ビジネス、人材開発についてお互いにメリットを生み出す可能性を感じた」、「素晴らしい企画だった」、「モンゴルの情報を頂けました」等々コメントがあった。

モンゴル・日本センターは今後、両国の交流を促進する目的で IT 業界に限らず他の業界も含むビジネスツアーを開催する方針である。



写真 16. MoJC にて実施されたジョブフェアの様子



写真 17. モンゴル企業訪問の様子

IV. 受講生の声

1. 学ぶ意欲が高い方々が一緒に学ぶことが何より大事だと感じた貴重な3ヵ月間だった。



写真18. B.Sancho

私の主観的な考えだが、教育は全てのカギだとしてらえているので常に新しい学びに積極的に時間を費やしている。多種の機関で学んできたが、今回のコースはあらゆる面で優秀だった。もちろん、勉強するには教室やカリキュラム、講師の影響は大事だが、本コースにおいては学友の方々の影響は大きかったといえる。カリキュラム、講師、教室は非常に良かったのは言うまでもない。

以前、NGOの経営をしていたときに、子供向けの研修プロジェクトを実施した経験がある。その際に感じたのは、人にものを教えるというのは簡単ではないということだった。しかし、モンゴル・日本センターの運営の仕方はプロ級で、受講生の年齢や学歴に関係なくコースに平等に参加させていたのがポイントだった。

今までは学友の方々の影響は大事だということがよく理解できていなかった。学ぶ意欲が高い方々が一緒に学ぶことが何より大事だと感じた貴重な3ヵ月間だった。

通常コースを終了後は、物事を様々な視点から見ることができ、何事も乗り越える力と知識が身に付いたことに感謝している。

通常コース経営者クラス 23期生、JCDecaux Mongolia LLCの社長 B.Sancho

2. 12日間で全部知っている、全部できる、素晴らしくて、魔法の人とお会いしたような感じがした。



写真19. D.Khishigdelger

私は、モンゴル・日本センターのビジネスコースの積極的な受講者、小企業の社長である。2016年に当センターの管理職クラスを修了した。ビジネスに関する全ての理解をコースから得て、自分で勉強して仕事に活かしている。本邦研修に2023年度に応募し、合格し22名の一人となって参加した。

九州の北九州市におけるJICAのセンターで12日間、関西大学の教授である後藤先生の指導で多くの企業、ミュージアムを訪問し、勉強した。

訪問企業についてセミナーを実施し、お互いに話し合い、後藤先生が理論のレベルで説明し、指導していたので見学したことを理論的に理解することに非常に役に立っていた。

私は、日本企業から以下のことを学び、自分の目で見て、経験をつむ目的で参加した。

1. 法則に従ってビジネスを行える、市場の原則が守られている国の事業を実際に見る。
2. この制度の中で会社の経営者とリーダーたちがどのように働いているか。
3. 日本市域制度でのマーケットプレイヤーはどんなガバナンス、マネジメントで活躍しているか。

上記の3つの課題において見つけた答えは：

1. 我々は様々な分野の、大中小企業のレベルが違う社員たちとお会いし、研修を受け、説明を聞いた。

会社の設立者、社長、マネジャー、継続者、ミュージアムガイド、普通の社員、NGO、協会のメンバーといった様々な方とお会いした。

全ての方に統一していたことは「我社、我が企業、私たちの市の目標は何か、我社はどんな方針、フィロソフィーをもっているか、我々は何のために働いているか」ということをどのレベルでも知っていた。「我々の仕事、その結果は国、国の制度に直接影響しており、日本が発展するかしないかは私のような数百人に関わっている」ということを認識していた。つまり、日本式制度の基本は「責任が私から始まる」といった認識に基づいていることを理解できた。

2. 経営者というと私の中に2つの考えがある。

モンゴルで社長、経営者、マネジャーというと下記のことを考え、メディアで宣伝されている。スーツを着た、大きな木製の家具をもっている、あるいは高級な部屋に座った、時々仕事に来る、仕事の細かいところまで入らない、入るはずもない、入るとの他のメンバーが驚く。彼らは傲慢で近寄りがたい存在に違いないという考えが私の心に残った。

しかし、中小企業の経営者である私は実際上記と全然違う：作業服を着て、小さい、大きなすべての問題に関わり、全レベルの仕事を自分の手でやり、仕事が好きだからこそ一日中に仕事を考え、シンプルでいることを好んでいる。

上記の 2 つの考えから「こうしたら間違ってしまうか」「こうするべきではないの」「私は一人でこんな」「他の会社が違う形でやっているのに」「他社がどうやってやっているか」などの疑問があった。しかし、日本の会社の社長、マンジャー、社員たちとお会いして、彼らは経験、仕事のやり方を話して、彼らの問題を聴くと「私と同じである」「私にもこのような問題がある」「この問題をこうやって解決するべきである」などの考えが出てきた。自分と同じ幸せと苦勞を感じている人たちを聞いて、急に人々が私をわかっている感じがした。

突然、「私は一人ではない」、「私は正しい道を歩いている」、「自分のままであり、仕事が好きであり、昼も夜も仕事について考え、好きで働いていいのではないか」、「小さい、大きいと問わず、すべての仕事に心から対応し、参加するべきである」と考えるようになった。

また、我々が聞いたシンプルな質問から難しい質問に対してすべての社長はオープンで答えていたことが非常にいい経験になった。

質問の答えをもらって、12 日間で、全部知っている、全部できる、素晴らしくて魔法の人とお会いしたような感じがした。日本企業の経営者はいかにシンプルで、勤勉で、謙虚な方であると考えた。経営者とリーダーが仕事を愛し、好きであることをわかった。

3. コーポレートガバナンス、マネジメントのところで分かったこと 彼らは言った、書いたことをその通りに実施している。言った、書いたことが正しい。

このように日本の国民の支援で、JICA、モンゴル・日本センターの研修に参加し、もっと自信をつけてきたことが私の成功である。書くことはこれ以上ある。

私たちが訪問した北九州市の管理者、市民が一体となり、ひどい環境問題に取り組んだことについて、高齢化に対してどんな対応しているか、人権はビジネスに関連していることについても学んだ。

各国、各市、各会社、各社員に問題が起こっていることを我々が見た。しかし、彼らは問題を解決できる、苦勞を乗り越えるといった期待、自信をもって仕事をしている、生活していることを見て誇りに思った。

JICA の九州センターで、研修員宿舎で泊ったことはドイツにいた学生の時を思い出せ、気持ちが良かった。北九州市は、日本で「田舎の市」で静かでストレスなし

の市であったことは大気汚染があり、騒がしくて、ストレスがあるウランバートル市からきた私たちにすごく気に入り、勉強しながら休んでいる気がした。

10月であり、天気も良くて、夜間に雨も静かに降っていたので快適であった。

我々は幸せな12日間を過ごし、たくさんのことを学び、知って、元気よくモンゴルに帰ってきたのである。

*通常コース管理職クラス14期生、本邦研修研修生
RTT LLC 社長、D.Khishigdelger*

日本語課



I. 2023 年日本語課活動全般

モンゴル・日本人材開発センター(以下、モンゴル・日本センター)の日本語課では、2012年4月よりJF日本語教育スタンダード(以下、JFスタンダード)に準拠した日本語教育「JF講座」を開始し、2022年に10周年を迎えることができた。授業を担当する教師は、教案検討会、コース運営会議、日々の授業記録(日誌)、講師研修等を通して、コースの質の維持・向上に努めている。

2023年はCOVID-19の影響がほぼなくなり、年間を通して対面式で日本語講座を開講することができた。受託事業は「特定技能」関連事業、京都大学iUPプログラム入学予定者のためのプレ日本語講座、モンゴルJDS来日準備日本語コースなどを引き続き実施した。

1. 日本語講座の概要

日本語講座の大部分は上述のJFスタンダードに則して実施している。本報告書は2023年2月～5月の春期コース、5月～7月の夏期(前半)コース、7月～8月の夏期(後半)コース、9月～12月の秋期コース(2024年1月終了)の実績報告となる。春期コースと秋期コースでは、レベル別の「総合日本語コース」、「(11歳～13歳)子ども向けまるごとコース」、日本語教師向けの「日本語教育講座」を開講している。それぞれの内容および実績の詳細については次表をご参照いただきたい。「総合日本語コース」は、期間が約4か月で、入門(A1)レベルの「総合日本語1コース」から中級(B1)レベルの「総合日本語6コース」まで設けている。2023年の「日本語教育講座」は春期・秋期ともに「JF日本語教育スタンダードを活かした初級日本語の教え方」というテーマで実施した。夏期(前半・後半)コースでは「ゼロ初級コース」を4クラス、「(8歳～10歳)子ども向け日本語講座」を1クラス開講した。

2023年の新規講座としては、春期に「日本語観光ガイド養成実践講座2023」(全13日間、計33時間)を開講して好評を得た。また、秋期にも中上級日本語学習者向けの「仕事に役立つ実践日本語講座」を開講し、日系企業や日本語学校など

で普段からビジネス日本語に触れている方から自身の日本語をブラッシュアップしたい方まで意欲的な受講者を集めることができた。

2. 共催事業について（主催、後援、協力を含む）

2023年の共催事業として、11月に「第15回日本語教育シンポジウム」と「第29回学校対抗日本語スピーチコンテスト」を開催した。その他、「日本語教育研究会」など、多くの事業・イベントを在モンゴル日本国大使館やモンゴル日本語教師会等と緊密に連携して実施した。

2023年日本語課活動実績

表 12. 春期コース、夏期コース、秋期コース

※出典：モンゴル・日本センター日本語課月次報告

No.	コース名	期間	内容	講師	受講者数
1	(11～13歳) 子ども向けまるごとコース前半 (A1レベル)	2023/02/07-2023/05/11	日本語をまったく学んだことがない11～13歳の子ども向けのコースで、JFS準拠教科書『まるごと入門<理解>A1』を使ってリスニング、会話、文法、読み書きを学ぶ。	G.アリウンボロ、栗山知之	9
2	総合日本語 1A (A1レベル)	2023/02/06-2023/05/22	日本語を初めて学ぶ人を対象とし、聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	Ts. オノン、O.ブルガン、佐藤慶一	26
3	総合日本語 1B (A1レベル)	2023/02/06-2023/05/22	日本語を初めて学ぶ人を対象とし、聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	Ts. オノン、O.ブルガン、佐藤慶一	26
4	総合日本語 2A (A2前半レベル)	2023/02/06-2023/05/22	A1レベルの学習を対象とし、A2前半レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	G.アリウンボロ、P.アルタンブラグ、D.ゾルザヤ、栗山知之	17
5	総合日本語 2B (A2前半レベル)	2023/02/06-2023/05/22	A1レベルの学習を対象とし、A2前半レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	G.アリウンボロ、P.アルタンブラグ、D.ゾルザヤ、栗山知之	23
6	総合日本語 3A (A2中間レベル)	2023/02/06-2023/05/22	A2前半レベルの学習者を対象とし、A2中間レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	D.ムンフトヤ、D.ゾルザヤ、栗山知之	17

7	総合日本語 3B (A2 中間レベル)	2023/02/06- 2023/05/22	A2 前半レベルの学習者を対象とし、A2 中間レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	D.ムンフトヤ、 D.ゾルザヤ、 栗山知之	17
8	総合日本語 4 (A2 後半～B1 初めのレベル)	2023/02/07- 2023/05/30	A2 後半レベルの学習者を対象とし、B1 初めのレベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	P.マラル、 井駒かおる	24
9	総合日本語 5 (B1 レベル)	2023/02/07- 2023/05/23	B1 初めのレベルの学習者を対象とし、B1 後半レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	D.ムンフトヤ、 井駒かおる	10
10	日本語教育講座 (B2～C1 レベル)	2023/02/09- 2023/05/11	第2言語習得理論・JF スタンダードを活かした基本的な日本語の教え方を知る。初級日本語の教案が作成できるようになり、それを元に模擬授業が行える。	鶴田靖行、佐藤慶一、 E.エルデネツェツェグ	12
11	日本語観光ガイド養成実践講座 2023 ※新規講座	2023/04/24- 2023/05/08	日本語ガイドを目指す方を対象、ガイド実務のノウハウやマナー、身だしなみ、知っておくべき日本語の表現等を理解・実践できるようになることを目的とする。講義や経験談、ペアワークやグループディスカッション、観光ガイドとしての実習等を組み合わせた全13日間、計33時間のコースである。	ゲスト講師： B.バトムフ、B.ガントルガ 常勤講師： O.ブルガン、E.エルデネツェツェグ、 G.アリウンボロル、P.マラル、 B.ブマンツェツェグ	24
12	ゼロ初級コース A (A1 レベル) ※夏期コース前半	2023/05/24- 2023/07/06	日本語をまったく学んだことがない人のためのコースで、JFS 準拠教科書『まるごと入門<理解> A1』を使ってリスニング、会話、文法、読み書きを学ぶ。	G.アリウンボロル、P.マラル、B.ブマンツェツェグ、 D.ゾルザヤ、井駒かおる、 栗山知之、佐藤慶一	18
13	ゼロ初級コース B (A1 レベル) ※夏期コース前半	2023/05/24- 2023/07/06	日本語をまったく学んだことがない人のためのコースで、JFS 準拠教科書『まるごと入門<理解> A1』を使ってリスニング、会話、文法、読み書きを学ぶ。	G.アリウンボロル、P.マラル、B.ブマンツェツェグ、 D.ゾルザヤ、井駒かおる、 栗山知之、佐藤慶一	23
14	ゼロ初級コース A (A1 レベル) ※夏期コース後半	2023/07/19- 2023/08/29	日本語をまったく学んだことがない人のためのコースで、JFS 準拠教科書『まるごと入門<理解> A1』を使ってリスニング、会話、文法、読み書きを学ぶ。	D.ゾルザヤ、Ts.オノン、 O.ブルガン、井駒かおる、 栗山知之	28
15	ゼロ初級コース B (A1 レベル) ※夏期コース後半	2023/07/19- 2023/08/29	日本語をまったく学んだことがない人のためのコースで、JFS 準拠教科書『まるごと入門<理解> A1』を使ってリスニング、会話、文法、読み書きを学ぶ。	D.ゾルザヤ、Ts.オノン、 O.ブルガン、井駒かおる、 栗山知之	26

16	(8~10歳)子ども向け日本語講座	2023/07/20-2023/08/22	日本語を楽しく学び始めたい、もしくはひらがな・カタカナを学んでも補習が必要な8~10歳の子ども向けコース。あいさつ、自己紹介、家族、好きな食べ物・飲み物、好きなもの、私の体、誕生日、趣味、私の1日、休みの日といったテーマで自分のことが言えるようになる。ひらがなが読める、書けるようになる。また、カタカナで自分の名前と国を読める、書けるようになる。	P.マラル、G.アリウンポロル、栗山知之、井駒かおる	25
17	(11~13歳)子ども向けまるごとコース後半(A1レベル)	2023/09/26-2023/12/21	日本語をまったく学んだことがない11~13歳の子ども向けで、JFS準拠教科書『まるごと入門<理解>A1』を使ってリスニング、会話、文法、読み書きを学ぶコース。	G.アリウンポロル、栗山知之	15
18	総合日本語 1A (A1レベル)	2023/09/25-2024/01/10	日本語を初めて学ぶ人を対象とし、聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	Ts.オノン、B.ブマンツェツェグ、栗山知之	28
19	総合日本語 1B (A1レベル)	2023/09/25-2024/01/10	日本語を初めて学ぶ人を対象とし、聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	Ts.オノン、B.ブマンツェツェグ、栗山知之	28
20	総合日本語 1C (A1レベル)	2023/09/25-2024/01/10	日本語を初めて学ぶ人を対象とし、聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	G.アリウンポロル、P.マラル、B.ブマンツェツェグ、O.ブルガン、井駒かおる	17
21	総合日本語 2A (A2前半レベル)	2023/09/25-2024/01/10	A1レベルの学習を対象とし、A2前半レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	P.アルタンブラグ、O.ブルガン、佐藤慶一	23
22	総合日本語 2B (A2前半レベル)	2023/09/25-2024/01/10	A1レベルの学習を対象とし、A2前半レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	P.アルタンブラグ、O.ブルガン、佐藤慶一	26
23	総合日本語 3A (A2中間レベル)	2023/09/25-2024/01/10	A2前半レベルの学習者を対象とし、A2中間レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	D.ゾルザヤ、D.ムフトヤ、井駒かおる	11
24	総合日本語 3B (A2中間レベル)	2023/09/25-2024/01/10	A2前半レベルの学習者を対象とし、A2中間レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	D.ゾルザヤ、D.ムフトヤ、井駒かおる	9
25	総合日本語 4	2023/09/26-2024/01/23	A2後半レベルの学習者を対象とし、B1初めのレベルを	D.ゾルザヤ、栗山知之	12

	(A2 後半～B1 初めのレベル)		目標とする。聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。		
26	総合日本語5 (B1 レベル)	2023/09/26-2024/01/16	B1 初めのレベルの学習者を対象とし、B1 後半レベルを目標とする。聴解、会話、読み、書きの4技能をすべて学ぶ総合的なコース。	D.ムンフトヤ、井駒かおる	15
27	仕事に役立つ実践日本語講座 ※新規講座	2023/10/10-2023/12/21	中上級日本語学習者の実社会での日本語使用場面を想定した講座。仕事で日本人との対人関係を維持できる程度に適切に、電話、文書、メールで明確に内容を伝えながらやり取りすることができることを目的とし、スピーキング、ライティング、プレゼンテーションの3分野に分けて指導。	E.エルデネツェツェグ、鶴田靖行	16
28	日本語教育講座 (B2～C1 レベル)	2023/09/28-2023/12/21	第2言語習得理論・JFスタンダードを活かした基本的な日本語の教え方を知る。初級日本語の教案が作成できるようになり、それを元に模擬授業が行える。	鶴田靖行、佐藤慶一、E.エルデネツェツェグ	12
					537

表 13 : 2023 年特別講座 & 事業

No.	コース・イベント名	期間	内容	講師、担当者等	受講者・参加者数
1	初中等日本語教員教授法研修会 2023	2023/01/17-2023/01/20	初中等教員を対象とした日本語教授法研修で、モンゴル全土における日本語教育の振興及び質の向上、初中等教員コミュニティの強化を目的とする。2023年のテーマは「自律学習、漢字、JLPT」である。	鶴田靖行、D.ムンフトヤ、B.ブマンツェツェグ	30
2	モンゴル JDS 来日準備日本語講座 ※受託講座	2023/04/04-2023/06/29	日本語をまったく学んだことがない人のためのコースで、JFS 準拠教科書『いんどり生活の日本語』（入門 A1 レベル）を使ってリスニング、会話、文法、読み書きを学ぶ。	D.ムンフトヤ、P.アルタンブラグ、D.ゾルザヤ、佐藤慶一	13
3	京都大学 iUP プログラム入学予定者のためのプレ日本語講座 2023 ※受託講座	2023/06/21-2023/08/23	京都大学入学予定者の日本語のブラッシュアップを目的とする。JFS 準拠教科書『まるごと日本のことばと文化』（中級 2/B1）、『みんなの日本語』（中級 2）を使ってリスニング、会話、文法、読み、書きを学ぶ。	E.エルデネツェツェグ、Ts.オノン、鶴田靖行、栗山知之	1

4	モンゴルスタディーツアー ※受託事業	2023/9/27	New Juulchin 社の依頼で日本青年モンゴル植樹交流団の13名を対象に日本センター事業、モンゴル概況、モンゴルと日本の異文化についてのレクチャーを行った。	O.ブルガン、E.エルデネツェツェグ	13
5	職員向け日本語入門講座	2023/05/29- 2023/06/09	モンゴル・日本センターの日本語を学んだことがない職員5名を対象。ひらがなの読み書き、簡単な挨拶、自己紹介、家族紹介等を学ぶ。	D.ムンフトヤ、G.アリウンボロル、P.マラル、B.ブマンツェツェグ	5
6	モンゴル・日本人材開発センター日本語レベル確認テスト (N4・N5レベル) ※イフザサグ大学の依頼、N4レベル・N5レベル各2回	2023/2/3、 2/10、 2/17、3/31	日本語能力試験 (JLPT) N4・N5レベル相当の模擬試験実施。言語知識 (文字・語彙)、言語知識 (文法)・読解、聴解	D.ムンフトヤ、P.マラル	58
7	モンゴル・日本人材開発センター日本語レベル確認テスト (N5レベル) ※BNM MEIRAI 社の依頼	2023/2/10	日本語能力試験 (JLPT) N5レベル相当の模擬試験実施。言語知識 (文字・語彙)、言語知識 (文法)・読解、聴解	B.ブマンツェツェグ	24
8	モンゴル・日本人材開発センター日本語レベル確認テスト (N3-N5レベル)	2023/05/09- 2023/05/12	各レベルの模擬試験実施。言語知識 (文字・語彙)、言語知識 (文法)・読解、聴解	G.アリウンボロル、D.ムンフトヤ、B.ブマンツェツェグ	19
9	モンゴル・日本人材開発センター日本語レベル確認テスト (N1-N5レベル)	2023/06/05- 2023/06/09	各レベルの模擬試験実施。言語知識 (文字・語彙)、言語知識 (文法)・読解、聴解	P.マラル、O.ブルガン、G.アリウンボロル、D.ムンフトヤ、B.ブマンツェツェグ	60
10	モンゴル・日本人材開発センター日本語レベル確認テスト (N1-N5レベル)	2023/10/23- 2023/10/27	各レベルの模擬試験実施。言語知識 (文字・語彙)、言語知識 (文法)・読解、聴解	E.エルデネツェツェグ、O.ブルガン、G.アリウンボロル、D.ムンフトヤ、B.ブマンツェツェグ	68
11	モンゴル・日本人材開発センター日本語レベル確認テスト (N1-N5レベル)	2023/11/20- 2023/11/24	各レベルの模擬試験実施。言語知識 (文字・語彙)、言語知識 (文法)・読解、聴解	E.エルデネツェツェグ、O.ブルガン、D.ムンフトヤ、B.ブマンツェツェグ	107
12	モンゴル・日本人材開発センター日本語レベル確認テスト (N4-N5レベル) ※ノムトナラン学校の依頼	2023/10/26	日本語能力試験 (JLPT) N4-N5レベル相当の模擬試験実施。言語知識 (文字・語彙)、言語知識 (文法)・読解、聴解	E.エルデネツェツェグ、D.ムンフトヤ、P.アルタンブラグ、O.ブルガン、B.ブマンツェツェグ、安達侑希	124
13	日本語コース運営会議	2023/1/23	2022年秋期コースの振り返り、各コースリーダー&運営担当者による報告と2023年春期コース実施に関する情報共有と意見交換、日程	司会進行： P.マラル 議事録： P.アリウンボロル 会議出席者：	11

			&担当講師時間割の確認など	当該コース担当講師	
14	日本語コース運営会議	2023/6/7	2023年春期コースの振り返り、各コースリーダー&運営担当者による報告と2023年夏期コース実施に関する情報共有と意見交換、日程&担当講師時間割の確認など	司会進行： O.ブルガン 議事録： P.アルタンブラグ 会議出席者： 当該コース担当講師	13
15	日本語コース運営会議	2023/9/7	2023年夏期コースの振り返り、各コースリーダー&運営担当者による報告と2023年秋期コース実施に関する情報共有と意見交換、日程&担当講師時間割の確認など	司会進行：B.ブマンツェツェグ 議事録： D.ムンフトヤ 会議出席者： 当該コース担当講師	11
16	2023年春期コース プレースメントテスト	2023/01/11- 2023/02/06	総合2~6コースの受講資格確認のためのプレースメントテスト	D.ムンフトヤ、G.アリウンボロル、P.マラル、O.ブルガン	51
17	2023年秋期コース プレースメントテスト	2023/09/06- 2023/09/22	総合2~6コースの受講資格確認のためのプレースメントテスト	D.ムンフトヤ、G.アリウンボロル、P.マラル、O.ブルガン	47
18	JF講座講師研修	2023/1/12、 1/26、 2/16、3/2、 3/16、 3/30、 4/12、 4/26、 5/10、 9/21、 10/11、 10/25、 11/8、 11/22、 12/20 計15回	MOJCでJF講座を担当する全日本語教師を対象。日本語教育や教授法などに関する知識と知見を蓄積・共有。習得したことを自身の授業・実践に活かす。	鶴田靖行	132
19	JFT-Basic 国際交流 基金日本語基礎テスト ガイダンスセミナー	2023/2/15、 5/16、 8/1、11/1	JFT-Basicの目的、対象、形式、画面イメージ構成、レベルの目安、テスト登録や結果の通知について説明。また、サンプル問題の練習、質疑応答、「いろいろ日本語オンラインコース」の使い方の説明を実施。	P.アルタンブラグ、O.ブルガン	94
20	『いろいろ生活の日本語』教科書を使った教授法セミナー	2023/6/14~ 6/16、 6/19、6/20	『いろいろ生活の日本語』の概要・特徴を説明し、体験授業と受講者による模擬授業を実施	鶴田靖行、佐藤慶一、P.アルタンブラグ	16
21	『いろいろ生活の日本語』教科書を使った教授法セミナー	2023/9/13~ 9/15、 9/18、9/19	『いろいろ生活の日本語』の概要・特徴を説明し、体験授業と受講者による模擬授業を実施	鶴田靖行、栗山知之、P.アルタンブラグ	16
22	「いろいろ日本語オンラインコース」の体験会	2023/6/7、 10/23	『いろいろ生活の日本語』教科書の普及とJFT-Basicのモンゴル人合格者の増加が目的。「いろいろ日本語オンラインコ	P.アルタンブラグ	33

			ース」の概要&使い方を説明し、参加者が入門編第3課を実際に体験。		
23	『いろどり生活の日本語』教授実践報告会 ※新規事業	2023/2/4	『いろどり』の概要・特徴説明のあと、実際に授業で活用している日本語教師4名による実践報告と質疑応答。	E.エルデネツェツェグ、O.ブルガン、B.ブマンツェツェグ、G.アリウンボロル、鶴田靖行	45
24	『いろどり生活の日本語』教授実践報告会	2023/12/9	『いろどり』の概要・特徴説明のあと、実際に授業で活用している日本語教師4名による実践報告と質疑応答を行った。『いろどり』活用のヒントとJFT-Basicとのつながりについても説明。	E.エルデネツェツェグ、P.アルタンブラグ、S.アマルバヤスガラン、鶴田靖行	40
25	『いろどり』一日体験授業 ※新規事業	2023/5/26、11/9	『いろどり入門』第3課を体験してもらってから授業の振り返りを行い、質疑応答、教科書の使い方・特徴、「いろどり日本語オンラインコース」を紹介。	P.アルタンブラグ	33
26	「特定技能」制度についての情報交換会 主催：モンゴル・日本人材開発センター 共催：国際交流基金、JICA 国際協力機構、モンゴル労働・社会保障省労働福祉サービス庁 (GOLWS) 協力：在モンゴル日本国大使館	2023/3/15	「特定技能」制度に関する正式な情報を公的機関代表者を通じて発信することにより、モンゴル国内における同制度の共通理解の促進と関連機関間の連携機会の拡大を目指す。日本で働く人材を創出する送出機関や日本語教育センターに統一した情報を提供することで、これらの機関が共通認識をもって事業に取り組み、またその事業を拡大する機会を提供する。	運営担当者：E.エルデネツェツェグ、P.アルタンブラグ、P.マラル、O.ブルガン、B.ブマンツェツェグ	120
27	日本語教育機関コンサルティング活動 (文化教育大学 & Line Bridge 語学センター日本語教師 M.ムンフツェツェグ)	2023/2/8	『いろどり』教科書の特徴、使用方法、シラバス、オンラインコース等についての相談	鶴田靖行、O.ブルガン	1
28	日本語教育機関コンサルティング活動 (G Sonkei 認定送出し機関、日本語学校代表者 G.ガンボロル、日本語教師 A.ミヤグマルドルジ、B.アルタンホヤグ)	2023/3/27	『いろどり初級I』、『いろどり初級II』のカリキュラム、教授法、リソース等についての相談	鶴田靖行、P.アルタンブラグ	3
29	日本語教育機関コンサルティング活動及び日本語教育相談 (ホブド県ホブド市 Ikh Altain Nomch 語	2023/11/2	MOJC「特定技能」関連事業、『いろどり』教科書、JF 公募プログラムの紹介	P.アルタンブラグ	1

	学センター日本語教師 M.Oyunchimeg) ※オンライン				
30	日本語教育機関コンサルティング活動及び日本語教育相談 (United Daimon 日本語学校マネージャーR.ソソルブラム)	2023/12/6	MOJC「特定技能」関連事業、『いろどり』教科書、JF 公募プログラムの紹介	P.アルタンブラグ	1
					1190

表 14 : 2023 年共催事業

No.	事業名	期間	内容	発表者/講演者/担当者 (敬称略)	参加者数
1	第 111 回日本語教育研究会 ※オンライン 共催：モンゴル日本語教師会	2023/1/21	発表テーマ： 「日本での外国人技能実習生の現状—アジア人技能実習生の事例を中心に—」	発表者： Yin Moe Thet (日本のアジアビジネス交流協同組合の日本語教師)	16
2	第 112 回日本語教育研究会 共催：モンゴル日本語教師会	2023/2/11	発表テーマ： ①「神話や伝説の語りにおける文化アイコンの理解：婚姻物語を例に」 ②「テスト作成について (文法テスト)」	発表者： ①E.トグトーン (モンゴル国立大学日本語教師) ②B.ウンドルマー (モンゴル国立科学科学技術大学日本語教師)	9
3	第 113 回日本語教育研究会 ※オンライン 共催：モンゴル日本語教師会	2023/3/18	発表テーマ： 「子どもたちの主体的な学びを育む授業デザイン」	発表者： 本間祥子 (千葉大学大学院国際学術研究院助教)	18
4	第 114 回日本語教育研究会例会 ※ハイブリッド式 共催：モンゴル日本語教師会	2023/4/15	発表テーマ： ①「MJEED プロジェクト高専予備教育プログラムのカリキュラム改善」 ②「多言語学習のススメ」	発表者： ①B.エルデネチョローン、E.サインビレグ (モンゴル国立科学技術大学日本語教師) ②鶴田靖行 (JF 日本語専門家)	18
5	第 115 回日本語教育研究会 共催：モンゴル日本語教師会	2023/5/20	発表テーマ： 「教師会の 1 年間の活動報告」 (2022 年 6 月から 2023 年 5 月までの日本語教師会活動報告 & 質疑応答)	発表者： E.バトジャルガル (モンゴル日本語教師会会長)	14

6	第116回日本語教育研究会 共催：モンゴル日本語教師会	2023/9/23	発表テーマ： ①「国際交流基金海外日本語教師教授法総合研修（夏季）を終えて」 ②「教科書『にほんごでできるモン』改訂に向けて」	発表者： ①T.エンフプレブ（エルデミーンウンダラー統合学校日本語教師）、Ts.ツェツェグマー（ナラン学校日本語教師）、M.ムンフツェツェグ（文化教育大学日本語教師） ②中西令子（モンゲンニ統合学校日本語教師）	26
7	第117回日本語教育研究会 共催：モンゴル日本語教師会	2023/10/21	発表テーマ： ①「日本語観光ガイド希望者向けガイドコースの開発と実践」 ②「第7回漢字ナーダム」報告	発表者： ①O.ブルガン（モンゴル・日本人材開発センター日本語教師） ②A.アムガラン（ノムトナラン学校日本語教師）	13
8	第118回日本語教育研究会 共催：モンゴル日本語教師会	2023/12/16	発表テーマ： ①「モンゴル母語話者による日本語のアスペクト形式の習得—中級学習者のアスペクト形式の使用の分析—」 ②「中国の漢字の話」	発表者： ①O.ホラン（モンゴル国立大学卒業生） ②栗山知之（モンゴル・日本人材開発センター日本語教師）	15
9	第15回日本語教育シンポジウム 共催：モンゴル日本語教師会、モンゴル・日本人材開発センター、独立行政法人国際交流基金 後援：在モンゴル日本国大使館	2023/11/5	テーマ：「コミュニケーション能力育成のための語彙指導」 基調講演：「コーパスに基づく語彙指導を目指して」 ワークショップ：「NLBと中納言を使ってみよう」	基調講演者： 森篤嗣（武庫川女子大学教授） 「第15回日本語教育シンポジウム」 実行委員会メンバー	63
10	第7回漢字ナーダム 主催：モンゴル日本語教師会、ノムトナラン学校、エルデミーンウンダラー統合学校、共催：モンゴル・日本人材開発センター、モンゴル国立教育大学社会人文学部東洋言語学科、 後援：在モンゴル日本国大使館	2023/10/14	「違いはいくつ」、「画数に合った漢字を見つけよう」、「漢字クイズ」、「漢字すごろく」の漢字ゲームを行い、高校の部・中学の部の1~3位を決定	審査員&協力者： 鶴田靖行、栗山知之、安達侑希	140

11	「第29回学校対抗日本語スピーチコンテスト」1次選考(原稿審査)	2023/10/28	高校の部と大学の部の2部門に分かれ、高校生23名のうち16名、大学17名のうち14名がそれぞれ勝ち残った。 テーマ：高校の部「ことわざ」、大学の部「お金」	「第29回学校対抗日本語スピーチコンテスト」実行委員会メンバー	40
12	「第29回学校対抗日本語スピーチコンテスト」2次選考(面接審査)	2023/11/4	1次選考を勝ち残った高校生16名、大学生14名が面接審査を経て、高校生10名と、大学生9名に絞られた。	「第29回学校対抗日本語スピーチコンテスト」実行委員会メンバー	30
13	「第29回学校対抗日本語スピーチコンテスト」本選リハーサル	2023/11/18	本選出場者が当日の流れや動線を確認した。	「第29回学校対抗日本語スピーチコンテスト」実行委員会メンバー	27
14	「第29回学校対抗日本語スピーチコンテスト」本選 共催：在モンゴル日本国大使館、モンゴル日本語教師会、モンゴル国立科学技術大学、モンゴル・日本人材開発センター、独立行政法人国際交流基金 協賛：在モンゴル日本人会、モンゴル日本商工会	2023/11/19	予選を勝ち残った高校生10名、大学生9名がスピーチを披露した。 テーマ：高校の部「ことわざ」、大学の部「お金」	「第29回学校対抗日本語スピーチコンテスト」実行委員会メンバー	145
					574

表 15：日本語コース受講者数

	2022年	2023年
春期	161	205
夏期	108	120
秋期	180	212
合計	449	537

グラフ4: 日本語コース受講者数

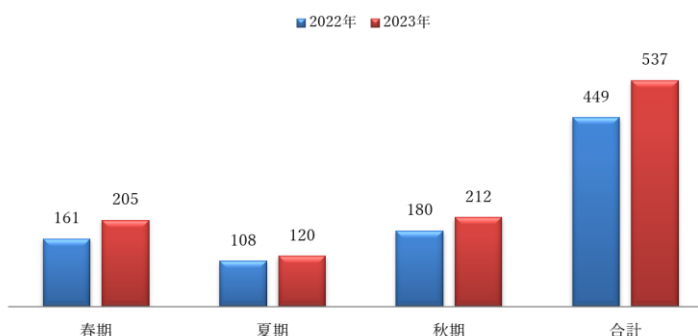


表 16：特別講座参加者数

	2022年	2023年
特別講座	1,903	1,190

グラフ5：特別講座参加者数

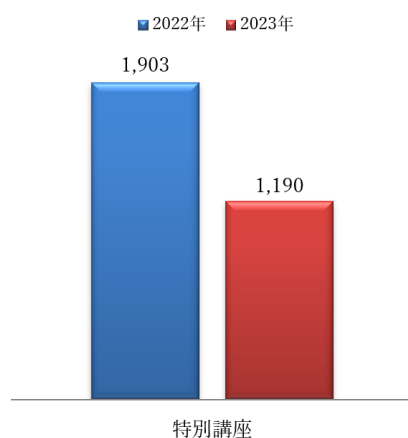
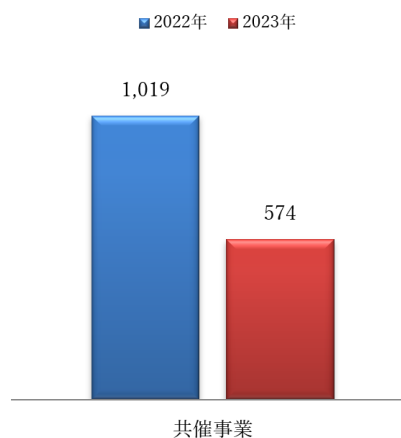


表 17：共催事業参加者数

	2022年	2023年
共催事業	1,019	574

グラフ6：共催事業参加者数



II. コラム

1. 「日本語観光ガイド養成実践講座 2023」

モンゴル政府は観光振興を目的に2023年～2025年を「モンゴル訪問の年」とすることを宣言し、観光振興政策を通じて積極的に外国人旅行者数の増加に取り組む意向を明らかにした。しかしながら、観光業界はCOVID-19の影響によって人材不足が問題となっている。こうした現状を鑑み、観光ガイドを目指す中上級日本語学習者を対象とした「日本語観光ガイド養成実践講



写真 20. 「日本語観光ガイド養成実践講座」

座 2023」を立ち上げ、2023年4月24日から5月8日までの全13回、計33時間にわたって実施した。

受講生は大学生、日本語教師、ガイド経験者など多種多様の24名だった。

講座内容は教室活動、実習の2つに分けられる。教室活動は講義、ペアワーク、ディスカッション、プレゼンテーションの形式で実施した。実習は市内及び郊外で行い、受講者が安全かつ予定通りに実習を楽しめるよう綿密な運営管理に努めた。受講者は現地（モンゴル国立博物館、スフバートル広場、テレルジ国立公園、遊牧民宅、乗馬体験所）に赴いてガイドとして説明を行い、それに対して担当講師がフィードバックをした。



写真 21. 「日本語観光ガイド養成実践講座」

最終日は旅行会社6社とのマッチング活動を行った。受講者はプレゼンテーション形式でガイドを実演した後、各旅行会社と面談した。コースで学んだ成果を披露することが就職活動にもつながる非常に有意義な活動となった。

旅行会社側からは「このような集中コースを実施してくれて非常にありがたい。今後も定期的に実施してほしい。」とのご意見を頂いた。

また、最終日アンケートでは、「たくさんのことを新しく学び、今まであまり気づかなかったことにも改めて気づき、とてもよい機会になった。」、「ガイドの仕事で出会う様々な出来事やお客様とのコミュニケーションの取り方など、普段なかなか教えてもらえない、経験に基づいた知識を得ることができた。」、「このコースを受講してガイドという仕事についての印象や考え方が180度変わった。このコースでは本当に様々な知識や情報を得ることができた。」、「受講料が安いうえ、

とても質の高いコースだった。将来役に立つ知識が得られた。」などの好意的な意見が寄せられた。

本コースでの学びが受講者の実際の仕事に役立つことを願っている。また、今後はコースカリキュラムの見直しを行い、よりよいコースを実施するように努めたい。

2. 「仕事に役立つ実践日本語講座」新規開講

中上級日本語学習者の実社会での日本語使用場面を考えた新規講座「仕事に役立つ実践日本語講座」を2023年10月10日から12月21日まで全11回、計22時間のコースとして実施した。

受講生は、日系企業に勤めている方から、日本語教師として日本人と接している方、自分の日本語能力のブラッシュアップを目指している方まで多種多様の16名だった。

コース内容はスピーキング、ライティング、プレゼンテーションの3分野に分けられる。スピーキングでは、コースを通して必要となる敬語の仕組み、コミュニケーションにおける「丁寧さ」の仕組み、電話での適切なコミュニケーション、ビジネス場面で起こるコミュニケーション・ギャップについて指導した。ライティングでは、ビジネス文書やビジネスメールの基本構成や形式を学習するだけでなく、実際にビジネスメールや報告書を書いて担当講師に送り、教師からフィードバックを行う等、より実践的な内容にした。プレゼンテーションでは、構成を理解し、聞き手にとって論点の分かりやすい発表をするための基本指導を行ない、最終日にプレゼン発表をしてもらった。また、プレゼンテーションの回に取り入れた日本人ゲストスピーカーのトークセッションも好評だった。

コースの課題としては、受講生の背景が多種多様で、日本語能力にもかなり開きがあったため、受講者全員のニーズにあった有益な授業にするのが難しかったことが挙げられる。授業内容によっては難しく感じていた人もいたようだ。今後、改善を繰り返しながら、毎年開講する看板コースに発展できればと考えている。

コース最終日のアンケートでは、「学習した内容をすぐに仕事で実践できるという面でとてもニーズのあるコースだった」、「仕事で役立つ幅広い情報や知識を順序よく短期間で学習できた」、「非常に効果的なコースだった。とても満足している」、「とても良いコースだった。実際に今の仕事での問題解決に役立った」などの好意的な意見が寄せられた。

本コースでの学びが何らかの形で受講者の実際の仕事に役立つことを願っている。

3. 「モンゴル JDS 来日準備日本語講座」

日本語課は毎年、モンゴル JDS プログラムに合格した公務員向けに「モンゴル JDS 来日準備日本語講座」を実施している。今年は4月4日から6月29日まで3カ月間、計100時間にわたって行った。

受講生は日本の大学に2年間留学する予定の13名である。その所属先・専門は金融規制委員会の非銀行金融機関管理庁書記官、国家統計局書記官、政策・協力局書記官、国会官房長、電子議会イノベーション局情報技術部アナリスト、非常事態庁専門家、土地マネジメント・測量・土地庁専門家などである。

2023年は昨年同様、『いろどり 生活の日本語 入門 (A1)』を使った。この教科書は外国人が日本で生活や仕事をする際に必要となる、基礎的な日本語のコミュニケーション力を身につけるための教材である。受講生はひらがな・カタカナに始まり、「自己紹介」、「家族紹介」、「毎日の生活」、「好きなこと」、「好きな食べ物（苦手な食べ物）」、「趣味」、「家と職場」、「街を歩く」、「店で」、「休みの日に」など、日本での生活におけるさまざまな場面で必要となる日本語の学習ができた。

講座の全体的な流れは例年通りである。通常の授業のほか、3課毎に復習時間を設け、中間と期末にそれぞれ文化体験授業を実施した。中間文化体験授業では「書道」を実施した。受講者は初めて筆で漢字を書き、「集中して文字を書くのがとても良かった」「筆で漢字を書いたら覚えられそう」などと感想を述べた。

また、特別活動として「日本人とのフリートーク」を2回実施した。「日本人とのフリートーク」について、終了後アンケートには「担当講師以外の日本の方と初めて話した。とても楽しかった」「上手に話すためにもっと頑張らなければ」と書かれていた。

今回は新たな工夫も試みた。教科書関連のオンラインコースのサイトを新しい課の導入に使ったり、受講者が欠席した場合はその課の内容をオンラインコースで自習してくるよう働きかけたりした。その他、国際交流基金・NHKの「ひきだすにほんご」サイトを利用して、日本に行ってから使えそうなストラテジーなどを取り入れた。

受講者は日本留学が決まっているので学習意欲がとても高く、全体的にやる気を感じるクラスだった。そして、最後まで積極的に参加し、全員が修了できた。

現在、受講生は日本留学中である。必ずや日本で学んできたことをモンゴルの発展に活かしてくれるものと期待している。私達は受講生の皆様の日本留学の第一歩となる日本語学習にかかわることができて幸いである。日本語学習の更なる進展と今後のご活躍をお祈り申し上げる。



写真 22. 「モンゴル JDS 来日準備日本語講座」

4. 「京都大学 iUP プログラム入学予定者のためのプレ日本語講座 2023」

本コースは、Kyoto University International Undergraduate Program (Kyoto iUP) 予備教育履修生として合格した学生に対して、合格決定後から渡日までの期間を利用してプレ日本語予備教育を実施することにより、現在保持している日本語能力の

1 ランク上相当の日本語能力を習得させ、2023 年 10 月開始予定の Kyoto iUP 予備教育課程においてより高いレベルの日本語教育を実現することを目的としたコースである。

2023 年は京都大学から 4 回目の依頼を受け、その目的に対応したカリキュラム・教材を作成し、2023 年 6 月 21 日から 8 月 23 日までコースを実施した。コースは 1 日 3 時間、週 3 回、計 75 時間であり、主教材として『まるごと 日本のことばと文化 中級 2 (B1)』、副教材として『みんなの日本語 中級 II 本冊』をそれぞれ使用した。また、課題のやりとりなどは Google Classroom で行った。

受講者は 1 名で学習意欲にあふれ、授業態度も非常に良く、どの活動に対しても積極的に取り組んでくれた。理解力・応用力が高く、授業で取り扱ったことをすぐ実践できるようになっていた。振り返り、復習、予習などの自宅学習にもきちんと取り組み、時間に余裕を持って課題を提出した。その結果、優秀な成績で修了することができた。

受講者はもともと日本語能力が極めて高かった半面、日本語アウトプットの経験が若干不足していた。しかし、『まるごと』でアウトプット練習を積み重ねたことで、日本語運用のストラテジーや会話・文章の構成力が格段に進歩し、文法上の間違いも少なくなった。また、日本語学習のかたわら、折に触れて日本での大学生生活・研究について取り上げ、渡日後のイメージをかきたてた。受講者は秋から日本で実施されるプレ教育で日本語能力を更に磨き上げ、その後の専門教育や研究活動でも大きな業績を残してくれるものと期待している。

受託コースとして、今後も京都大学の依頼に対応し、京都大学 iUP プログラム入学予定者の日本語レベルに合ったカリキュラム・教材を作成し、ニーズに応えられるコース作成に取り組んでいきたい。



5. 「特定技能」 関連業務

モンゴル・日本センターは JF 本部の担当部署と協議を重ね、モンゴルにおける「特定技能」制度の認知度を高めるため、2019 年から下記の 3 つの日本語教育に関する事業を主に実施している。

1. 国際交流基金日本語基礎テスト (JFT-Basic) 関連業務
2. 現地の教師支援活動
3. 日本語センターや送出機関の情報収集、コンサルティング活動

「国際交流基金日本語基礎テスト (JFT-Basic) 関連業務」については、JFT-Basic の認知度を高め、受験者数及び合格者数を増やすため、JFT-Basic の実施日程に関する情報を常時提供するとともに、JFT-Basic に関する問い合わせにも対応した。

また、JFT-Basic ガイダンスセミナーを JFT-Basic 開催日前に対面で 4 回実施し、94 名に情報を提供した。セミナーでは JFT-Basic とはどのようなテストなのか、申込や受験はどのようにして行われるのかを具体的に説明し、サンプル問題をもとに練習し、試験対策に使える教材や『いろどり日本語オンラインコース』などを紹介した。

さらに、「いろどり日本語オンラインコース」の体験会を、JFT-Basic の合格率及び認知度の向上を目的として、2 回実施した。体験会では PC 室のパソコンを使って、参加者全員にオンラインコースに登録してもらい、『いろどり』やそのオンラインコースの特徴・魅力を実際に体験してもらった。



写真 24. JFT-Basic ガイダンスセミナー

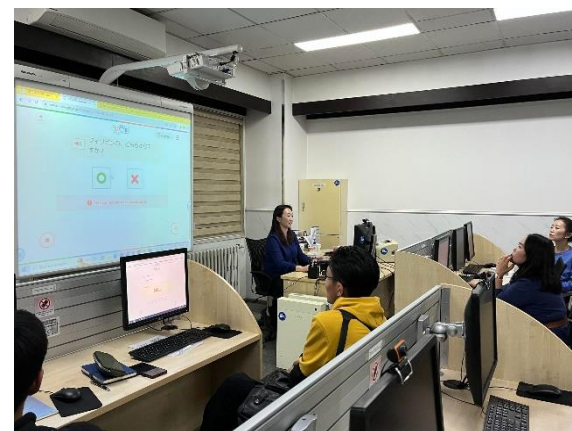


写真 25. 「いろどり日本語オンラインコース」の体験会

「現地の教師支援活動」については、JF 日本語専門家鶴田靖行による『いろどり』教授法研修を対面で2回実施し、32名が参加した。

また、日本語教師と日本語学習の両者を対象とした『いろどり』一日体験授業を2回実施した。

さらには、『いろどり 生活の日本語』教授実践報告会を、主に就労のために来日を希望する人たちへ日本語教育を行う日本語センターなどの教師を対象に、『いろどり』実践経験の共有と『いろどり』認知度の向上を目的として、2月と12月の計2回開催した。報告会では、『いろどり』概要・特徴の説明のあと、『いろどり』を実際に授業で活用している教師4名による実践報告が行われた。実践報告に対する質問応答からは、『いろどり』を目的に合わせて使い始めた教師や今後の活用を検討している教師が多いことが窺われた。その他、日本語センターの教師だけでなく、大学の教師も参加していたので、日本語教師の交流の場としても有意義な報告会になった。報告会の発表者や参加者の中には、過去にモンゴル・日本センターの『いろどり』教授法セミナーに参加した方のほか、JF 訪日研修に参加した方もいて、教授実践の事例・課題を共有し合った。これは今まで現地教師支援のために実施してきた様々な活動、特に『いろどり』教授法セミナーの成果だと言える。

「日本語センターや送出機関の情報収集、コンサルティング活動」については、日本語教育機関調査リストの情報更新を行うとともに、3機関と日本語教育相談を行った。リストに記載されている機関に対しては特定技能制度関連の日本語教育活動やJF 公募プログラムの助成金についての情報を随時提供した。また、コンサルティング活動やJF 助成事業の広報活動を行う中、COVID-19の影響で休業していたが今になって営業再開した機関がいくつかあった。

2024年も「特定技能」制度に関心のある日本語学習者や日本語講師の皆様に貢献できるような活動を実施し、しっかりと情報をお届けできるような事業計画を立てていきたい。



写真26. 「『いろいろ』教授法セミナー」と「『いろいろ』教授実践報告会」の様子

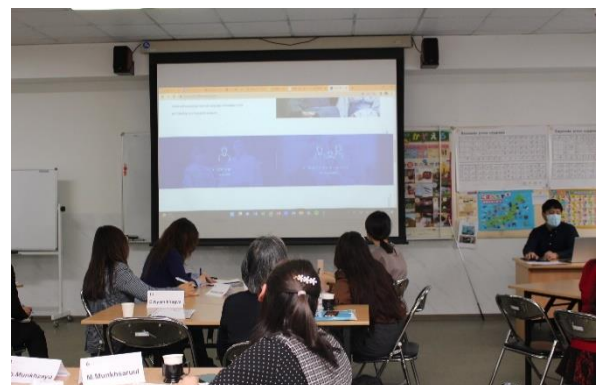
III. 事業コラム

1. 「初中等日本語教員教授法研修会 2023」

2022年の初中等日本語教員教授法研修会はCOVID-19の影響からオンラインで開催したが、2023年は対面で行うことができた。今回は地方からの参加者の負担を考慮して期間を短縮し、一日3時間で4日間（計12時間）にわたって実施した。

参加者は30名で、その内訳はウランバートルの教師20名、地方の教師8名、子どもコース担当のMOJC日本語課職員2名である。研修会の参加受付を開始する前に、Facebookの「Benkyokai」というグループを通して研修会で学びたい項目についてアンケートを行い、日本語教員のニーズを把握した。

研修内容は、「外国語としての日本語授業」、「自律的な学習者を育てる」、「日本の小学校の授業動画視聴」、「日本の中学校の授業動画視聴」、「漢字について」、「JLPTについて」、「訪日プログラムの紹介」、「グループ内での話し合いと学び合い」、「課題と振り返り」などである。



4日間という短い期間だったが、大変有意義な研修会になったことが参加者の様子や最終日アンケートから分かった。研修中は参加者が楽しそうにグループ・ディスカッションを行っていた。最終日アンケートでも、「この機会はとても良かった」という感謝の声が多かった。他にも、「今回知らなかったことがたくさんあったので、使えそうなことがたくさん学べた」、「日本の中学校の授業の動画を視聴し、授業の流れやクラス作りなどで参考になるいいアイデアをたくさん頂いた。自分自身の授業のやり方、教え方を改善する方法を見つけた」、「これまで知らなかったことについて豊富な知識が得られた。また、一緒に参加された先生方の教え方からも学べるとてもいい機会だった。」などの声が寄せられていた。

2023年の研修会には地方から8名が参加したが、彼らの宿泊代や交通費をJF講座予算で援助した。これについて、参加者は「モンゴルの初中等日本語教育への大きな支援だ」と感謝していた。

2023年はCOVID-19の後の最初の対面式の研修だった。皆が全員の顔を見ながら、お互いの経験、悩み、勤勉さなどを感じながら参加できたことはとても嬉しいことである。今後もこのように参加者同士で話し合いができる環境を作るとともに、お互いの教え方の工夫などが実際に見られるような研修会にしていきたい。

2. 「第15回日本語教育シンポジウム」

2023年11月5日（日）に「第15回日本語教育シンポジウム」を開催した。主催はモンゴル日本語教師会、共催はモンゴル・日本人材開発センター及び独立行政法人国際交流基金、後援は在モンゴル日本国大使館である。シンポジウムのテーマは「コミュニケーション能力育成のための語彙指導」であり、武庫川女子大学森篤嗣教授による基調講演「コーパスに基づく語彙指導を目指して」とワークショップ「NLBと中納言を使ってみよう」を実施した。参加者からは、「語彙を適切に使用し、学習者に分かりやすい例文や語彙を使って授業をすることがどれだけ重要か理解できた」、「講義のテーマはとても面白くて有意義だった。教授もとても有能な方で、言葉や説明が分かりやすく、話し方が素晴らしいと思った」、「現在の日本語研究の状況や成果を発表し、実際に使えるシンポジウムを実施していただいて

ありがたい。こういうシンポジウムを継続して実施してほしい」など、好意的な意見が多数寄せられた。



写真 28. 「第 15 回日本語教育シンポジウム」

3. 「第 29 回学校対抗日本語スピーチコンテスト」

2023 年 11 月 19 日（日）に「第 29 回学校対抗日本語スピーチコンテスト」を開催した。このコンテストは在モンゴル日本国大使館、モンゴル日本語教師会、モンゴル国立科学技術大学、国際交流基金の共催で行われ、NGO 法人在モンゴル日本人会、NGO 法人モンゴル日本商工会が後援した。

「高校の部」は 10 名、「大学の部」は 9 名が出場し、「ことわざ」（高校の部）、「お金」（大学の部）というテーマでスピーチをした。高校の部と大学の部の入賞者それぞれ 4 名には、在モンゴル日本国大使館から JENESYS（対日理解促進交流プログラム）に参加する権利が贈られた。

アンケートによると、出場者からは「日本語を始めて 1 年 6 か月。こうしてスピーチコンテストに出ることが自分の日本語能力の総合的な向上につながった」、「モンゴルには日本語に興味を持つ人達が沢山いることを知った」などの感想が寄せられた。また、関係者からは「高校生がことわざについて自分の考えを表現できるということは本当に素晴らしいと思った」、「大学生は高校生より広い視野を持ち、大学生らしく出場者の個性が出たスピーチとなって良かった」などの声が寄せられた。



写真 29. 第 29 回学校対抗日本語スピーチコンテスト

IV. 受講生の声

「子供向け日本語講座」感想 ～みんな、ありがとう～

みなさん、こんにちは。私は B.エンフオユーンです。夏休みに子供向け日本語講座を受講しました。授業は楽しく教えてくれたので、それが一番よかったです。遊んだり、歌を歌ったりしながら日本語の文字を読むことができるようになり、とても嬉しかったです。ひらがなや日本文化、それから日本の歌を 2 つ学びました。今、外を歩いているときに日本語の文字で書かれたものを読むことができます。そのとき、両親が私を見てとても嬉しくなり、父は握手までしてくれます。もう少し大きくなったら、もっと日本語を勉強したいと思っています。



写真 30. 2023 年夏期
「(8-10 歳) 子供向け日本語講座」
B.エンフオユーン

2023 年夏期 「(8~10 歳) 子供向け日本語講座」 B.エンフオユーン

こんにちは。日本の文化に触れ、日本の文字の読み書きができるようになるだけでなく、学校以外の環境で新しい出会いや学びを味わって欲しいという思いから、娘にこのコースを受講させました。娘は夏休みに日本語で読み書きできるようになったことをとても喜んでいました。今後の日本語の学びにも期待が高まっています。私達は家族として、娘が何かを学ぶ情熱を応援するために常に努力しています。このコースは子供を飽きさせずに楽しく教えていて、効果的でとても良かったです。娘は学びが強制的なものではなく、楽しく心地よい方法でできるのだと理解したと思います。

B.エンフオユーンの保護者

「子ども向けまるごとコース」感想

みなさん、こんにちは。

私はスندگانです。私の祖父は慶應義塾大学を卒業し、しばらくの間、家族全員で日本に住んでいました。祖父は時々、私達に日本での楽しい思い出や日本の発展についての興味深い話をしてくれました。今も私の叔母といとこなどの親戚が日本にいます。そのため、私もいつか日本を旅行し、祖父の話に出てきた場所やものを自分の目で見たいと思っています。そして、祖父が通っていた大学に入学し、祖父のような立派な人間になりたいです。

日本語を学ぶのは私の夢だったので、最初は独学で勉強してみました。しかし、勉強が思った通りに進みませんでした。その時、モンゴル・日本センターが学校に近いことを知り、モンゴル・日本センターの「子ども向けまるごと日本語コース」を受講することにしました。私は漫画やアニメが好きなので、初めてモンゴル・日本センターを利用した時は図書室が印象に残りました。日本語の授業の中で文化体験の授業が一番面白かったです。また、テストでいい点数をとれた時にプレゼントをもらうことがあり、そのときは嬉しく、非常にモチベーションが上がりました。

私の夢を叶えてくれたモンゴル・日本センターの先生方に心より感謝しています。そして責任をもって頑張り、成績優秀者に選ばれて修了できました。成果を出



写真 31. 2023 年秋期
「(11~13 歳) 子ども向けまるごとコース」 T.スندگان

してコースを修了できたこと、そして修了証を授与された瞬間は一生忘れられないと思います。最終日に次のコースも続けられるとの結果を聞いて、とても嬉しかったです。

2023 年秋期「(11~13 歳) 子ども向けまるごとコース」T.スundary

「ゼロ初級コース」感想

こんにちは、私は7月19日からモンゴル・日本センターで日本語を学び始めました。夏期のゼロ初級コースを受講し、無事に修了できました。先生方の教え方はとても素晴らしかったです。分かりやすい方法で早く進むのが気に入りました。先生方が受講生全員の参加を重視し、毎日宿題を出し、振り返りをしっかり行うことが私の学習に大きな影響を与えたと思います。モンゴル・日本センターと先生方に感謝申し上げます。学習環境はとても快適で綺麗でした。



写真 32. 2023 年秋期
「ゼロ初級コース」B.ソロンゴ

2023 年夏期「ゼロ初級コース」B.ソロンゴ

「総合日本語 1 コース」感想

まず言いたいことは、モンゴル・日本センターで日本語を学習しようと思ったのは私にとってベストな決断だったということです。最初は私の日本語を学ぶという目標がそれほど大きなものではなかったのですが、とても軽い気持ちで始めました。しかし、コースに通い始めた瞬間から先生達の勤勉な性格を見て、さらにクラスメートの粘り強さにも慣れてきて、自分も頑張るようになりました。コース期間中、これほどまでに自分を奮い立たせ続けられたのは Can-Do で自己評価をし、ミニ本で作文を書いて発表するなど、さまざまな小さな挑戦があったからです。コースで学んで何



写真 33. 2023 年秋期
「総合日本語 1A コース」
A.ミチド

を理解したかということ、学習者本人の努力が一番大事だということです。もちろん、先生達の教え方は誰にも比べられないほど優れていました。しかし、もし私自身がそんなに頑張らなかったら、そんなに粘り強くなかったら、これほど学ぶことができたのだろうかと思います。最後に、日本語を学習すれば学習するほど、日本に行きたいという目標がかけ離れたものではなく実現できそうなものになってきました。皆様、ありがとうございました。

2023年秋期「総合日本語 1A コース」A.ミチド

「総合日本語 2 コース」感想 ～日本の社会文化に関する理解を深めた～

私はモンゴル・日本センターの秋期の総合日本語 2 コースを受講しました。このコースは日本語の知識を深め、適切な学習方法を身に付けながら、日本の社会・文化についても学べた効果的なコースでした。

他のコースと比べて、JF スタンドードに基づいた教材を使用し、「聞く・話す・読む・書く」スキルを総合的に教え、内容に応じた宿題、確認テストを定期的実施しているのが、このコースのいいところだと思います。

受講生がチームを組み、日本の生活と文化について自律的に調べ、授業で発表し合う特別な時間を設定したことは、日本語を通して日本の社会文化に関する理解を深める機会となりました。総合日本語 2 コースでは、授業担当の O.ブルガン先生、佐藤慶一先生、P.アルタンブラグ先生が丁寧に教えてくださり、感謝しています。

また、受講生のために教室設備を常に管理し、清潔で安全な学習環境を提供していただいたモンゴル・日本人材開発センターにも感謝しています。

皆様の今後のご活躍をお祈り申し上げます。

2023年秋期「総合日本語 2B コース」L.オユンエルデネ



写真 34. 2023年秋期
「総合日本語 2B コース」
L.オユンエルデネ

「総合日本語3コース」感想

モンゴル国立科学技術大学、インテリアデザイン科3年生のB.プレブドルゴルです。私は高校生の時から日本及び日本語・日本文化に興味・関心を持っていました。

2023年秋、モンゴル・日本センターの『まるごと』を使用した総合日本語3コースに通い始めました。それまで、日本語は自分の興味から独学で勉強してきました。受講してみると、このコースには対面式の授業のメリット、特徴、教授法などよい点がたくさんありました。その中からいくつかを挙げます。

- ・ 日本語を日本の生活、歴史、文化、マナー、習慣などを通して初級レベルの学習者に身に着けさせる教科書を使用していること
- ・ 実生活で広く使われるトピックについての日常表現・会話、リスニング問題・練習がたくさんあったこと
- ・ 授業中は先生だけとやり取りするのではなく、学習者同士が学んだことや知識をお互いに共有し、話し合う機会を作ってくれること。
- ・ 学習者が授業毎に自己評価をすることで、学習過程を確認し自律的に学ぶのにいい影響を与えること。
- ・ 教科書以外に役に立ちそうな読み書きの教材を豊富に提供してくれること。
- ・ 学習者を励まし、サポートする活動、さらにクラスの雰囲気作りのための色々な活動があったこと。
- ・ 会社や学校に通いながら、ゆっくり学習できるコースであったこと。

以上、モンゴル・日本センターの優秀な先生方の下で、『まるごと』コースを受講できて本当に嬉しかったです。誰でも参加できるこのコースをぜひ皆さんにお勧めしたいです。

2023年秋期「総合日本語3コース」B.プレブドルゴル

「総合日本語4コース」感想～いつかの機会にと思っていた

語学学習の夢を叶えて～

新しいことを始めるとき、最初の一步が最も難しいステップであることを知っていますか。

私の身の回りには「新しい言語を学びたい」、「言語学習を再開したい」、または「いつか新しい言語を学び始めたい」と言い続ける人が少なくありません。実は私も2022年春、総合日本語1コースを受講するまでは夢のために一切行動をせず、頭の中で考えていただけでした。そんな時、流行していたCOVID-19の中で、人生がこんなに短く失いやすいものであるかを強く実感しました。そして、1度しか与えられない人生で自分がしたいことを実現せず取り逃してしまうのはもったいないと感じました。これがきっかけで日本語を学び始めました。

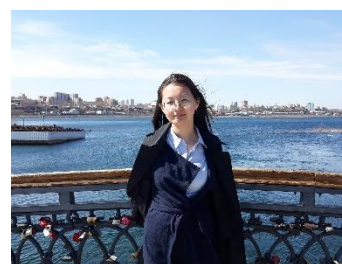


写真 35. 2023年秋期
「総合日本語4コース」
G.タナン

モンゴル・日本センターの施設に入ると、モンゴルの国境を離れ、日本国に歓迎されているように感じます。私は以前からモンゴル・日本センターの図書室をよく利用していました。そのため、日本語を学ぶ場所を選ぶ際、ここの日本語講座が1番良いと考えて受講しました。受講を始めてから現在まで、総合日本語4コースを修了し、次の総合日本語5コースに進む準備を整えている。

モンゴル・日本センターの講座では手がしびれるまで漢字や仮名を書かせたり、文章を覚えさせたりしません。何かが難し過ぎると、途中であきらめてしまうのは当然のことです。それと同様、長年の経験のある先生方が、日本語初心者の方々のために作成した『まるごと』というカリキュラムが、上述の問題を解決できているような気がしています。このカリキュラムからはすぐ忘れてしまう短期間の知識ではなく、知らないうちに実際に使えるようになる一生の知識が得られます。

実は、世の中の多くの言語から日本語を選んだのには理由があります。私は日本文学に興味を持っており、いつか日本語で日本の小説を読みたいという夢を実現するために日本を学び始めたのです。

今では日本の日常生活で見られているウェブサイトやゲーム、You Tube、Instagram、TikTokなどのプラットフォームに書かれているコメントを読んで理解したり、自分の感想を書いたりできるようになりました。夢が少しずつ実現されていると感じて嬉しいです。もちろん、夢を叶えるまでにはまだまだ長い道のりが待っています。総合日本語6コースの後のコースがまだないことを少し残念に思っています。モンゴル・日本センターで受講できるコースが終わってからも自分で日本語学習を続けていきたいと考えています。自立して学習するために必要な能力も身につけられていると思います。これは今まで優しいときは優しく、厳しいときは厳しくしながら心をこめて指導してくださった先生方のおかげです。さらに、快適な環境の中で学習できる機会を提供してくださったモンゴル・日本センターのスタッフの皆さんにも心より感謝しています。将来こちらでまた勉強できる機会を楽しみにしています。

2023年秋期「総合日本語4コース」G.タナン

「総合5日本語コース」感想

こんにちは。

私はムンフゲレルです。4年前、私は日本語を勉強すると決めてネットでいろいろ調べ始めました。お金をかけずに独学できるよう、一生懸命頑張りました。そして、自分のレベルが知りたくて、日本語能力試験（JLPT）を受けることにしました。その対策として、自分でJLPT模擬テストの参考書に取り組み始めました。



写真 36. 2023年秋期
「総合日本語5コース」
M.ムンフゲレル

大学生になると授業が多くなり、日本語を勉強する時間がなくなりました。冬休みと夏休みの間に勉強する目標を立てましたが達成できませんでした。また、具体的にどうやって勉強すればよいか分からない時もありました。

その後、今秋、モンゴル・日本センターで日本語コースがあることを知り、授業料も高くなかったため行ってみようと思いを決めました。このコースはテスト対策では

なく、実生活で使われる日本語を教えてくれるのが一番気に入りました。私は日本食や日本の祭り、町など、行ってみたいり体験してみたいことについてあまり知らなかったのでとても役に立ちました。

このコースは、会話を聞いて理解する練習や自分で話す練習が多く、会話を続けるにはよく考えなければならないことを教えてくれました。今までは試験の準備をしていい点数を取ればそれだけで「自分が偉い」と思っていました。その反面、実際に日本人とうまく話せないのが自分の課題でもありました。そのため、このコースは私にとって、全ての能力を向上させる必要があることを認識させ、将来何を学ぶ必要があるか導いてくれました。

2023年秋期「総合日本語5コース」M.ムンフゲレル

「日本語教育講座」感想

こんにちは。私はツェレンドルゴルと申します。専門は弁護士ですが、同時に日本語コミュニケーターでもあります。モンゴルで大学を卒業した後、日本語学校紹介センターに申し込み、『みんなの日本語』教科書で初めて日本語を学びました。それからすぐに日本の日本語学校に入学し、最終的には専門学校や大学へ進学することができました。



写真 37. 2023年秋期
「日本語教育講座」
B. ツェレンドルゴル

モンゴルに帰国してから、長年にわたり弁護士として働いてきましたが、日本で得た知識を子供たちに伝えたいとずっと考えていました。そのため、日本語教育に関連する仕事をすることを決意し、その目的で日本語教授法の講座を受講しました。

研修中、先生の教え方や教科書は、私が初めて外国語を学んだ時と全く異なると感じながら、興味深く学びました。

モンゴル・日本センターの経験豊富な立派な日本人の先生から、外国語教授法や第二言語習得に関する論理、JFスタンダード、コースカリキュラム、『まるごと』と『いろどり』の教授法、教材リソースなど、日本語を教える上で必要な様々な知識を学びました。

JFが開発した『まるごと』と『いろどり』の教授法に関する授業が終わった後、グループに分かれて模擬授業を行いました。模擬授業の後、皆で授業の良い点や改善点についてフィードバックをしました。これは私にとって非常に面白く、有益な学びの機会でした。

講座終了後、外国語学習は社会や時代の変化につれて変遷してきており、学習方法や教授法もより分かりやすく面白く進歩していることが理解できました。そして、JFスタンダードもよく工夫して作られていると感じました。

『いろどり』教科書は手に入れやすく、対面型授業からオンライン型授業への切り替えも可能なため、今後もこの教科書の使い方や教え方について詳しく調べたいと考えています。

そして、その学びを生かして、日本語に興味を持つ子ども達に日本語を教え、彼らが明るい未来を夢見て生きていく手助けができれば嬉しいと考えています。ある意味で、これが日本国に対していつも感謝している私の気持ちを伝える一つの証になるだろうと思います。

最後に、毎年日本語教師のために日本語教育講座を実施しているモンゴル・日本センターの皆様、そして日本人の先生方に心より感謝申し上げます。

2023年秋期「日本語教育講座」B.ツェレンドルゴル

「モンゴル JDS 来日準備日本語講座」感想～先生方、誠にありがとうございました！

私はバーサンドルジです。私は2022年度のJDSプログラムに合格し、2023年4月から6月までモンゴル・日本センターで3か月の日本語コースに参加する機会をいただきました。ひらがな・カタカナをはじめ、日本語の基礎知識をムンフトヤ先生、ゾルザヤ先生、アルタンブラグ先生、佐藤慶一先生に教えていただき、基礎知識と能力をしっかりと身に付けることができました。



写真 38. 「JDSプログラム」
D.バーサンドルジ

このコースにはJDSプログラムに合格した13名が参加し、優秀で優しい先生方から日本について、特に日本の生活、フォーマルな場面や

カジュアルな場面でのコミュニケーションなど、たくさんのことを学ぶことができました。

このコースは日本式で行われ、Can-Do 確認、シャドーイング練習、小テストなどの面白い方法が取られました。特に、コース中に日本人と会う機会があり、日本語で話すチャンスを与えていただいたことが非常によかったです。また、「誰が一番きれいな漢字が書けるか」という大会が面白かったです。大会ではオトゴンボルドさんが「母、父」という漢字をきれいに書いて優勝していたのが印象的でした。このコースは、今後も日本留学を目指している数多くの若者の人生に大きな影響を与えていくでしょう。

このコースで得たいくつかのノウハウは自分の職場でも実践できると思います。例えば、決められたことを決められた通りにすること、決められた時間を守ること、さらに、授業に出席していないとどんな理由でも欠席扱いになることなど、厳しくても責任を感じさせる重要なことが多かったです。

また、使用教科書の『いろどり』は印刷版とオンライン版があり、さらにそれをサポートするオンラインコースもあったので、とても効果的でした。

現在、私は日本の日本国際大学で日本語の学習を続けています。

最後に、先生方に感謝の意を伝えたいです。皆様の更なるご活躍をお祈りしています。

2023 年「モンゴル JDS 来日準備日本語講座」

日本国際大学学生 D.バーサンドルジ

「仕事に役立つ実践日本語講座」感想

こんにちは。アノダリと申します。モンゴル国立大学の卒業生で、専門は日本語翻訳・通訳と日本研究です。現在、この専門を活かし、モンゴルで仕事をしています。

外国語教師も含め、教師は生涯にわたって学ばなければならないと私は常に意識しています。そのため、モンゴル・日本センター主催のセミナーや研修会に欠かさず参加したいと思い、モンゴル・日本センターからの広告案内を待っています。幸いなことに待望の「仕事に役立つ実践日本語講座」の実施案内が出されたので、最初に申し込みました。

期待通り、このコースは仕事で日本語を使用する人には非常に有意義で、実践的な内容で、効果的でした。モンゴルで活動する多くの日本関係機関の方々と同じクラスで学び、お互いに多くのことを学び合えたことをうれしく思います。

コースの特徴は下記の通りです。

- ・ 11回 22時間という短期間のコースだが、簡潔で正確な知識を得ることができた
- ・ モンゴル人教師と日本人教師が交互に授業を行い、両方の先生から学ぶことが多かった
- ・ 勤務時間外に受講できたので欠勤の問題が無く、集中して学習できた
- ・ コース中に日本人ゲストスピーカーの講義を聞く機会があった

こうしたメリットがあるので、ビジネスや仕事で日本語を使用する知人や友人には、次回のコースを受講するよう勧めたいです。日本式の活動、研修会、情報の機会を提供してくださっているモンゴル・日本センターの先生方、職員の皆様に深く感謝の意を表します。



写真 39. 「仕事に役立つ実践日本語講座」 U.アノダリ

「仕事に役立つ実践日本語講座」 U.アノダリ

「日本語観光ガイド養成実践講座」感想

まず、日本語観光ガイド実践講座を開講して頂いたモンゴル・日本センターの皆様にご心より感謝申し上げます。この講座は私にとって人生が変わるぐらいの大きな進歩となりました。日本から母国であるモンゴルに帰ってきて、日本語を使う機会はあまりないかもしれない、忘れてしまったらどうしようと心配していた私にとってはとても理想的なコースでした。この講座に通い始めて、観光業界に迷いなく入ることを決心しました。講座終了後にすぐ職場が見つかったことにとても感謝しています。モンゴルの文化、歴史をより広い範囲で学ぶとともに、外国からモンゴルを訪れる観光客に向けてどのような説明をし、いかに合理的で正しく肯定的に伝えるか教えられ、ガイドという仕事は幅広い分野の知識がどれだけ重要か理解した14日間でした。受講生24人は年齢を問わず自分の知識を他の受講生と共有し合い、お互い学び合う意欲で溢れていました。そして、受講生は先生方のおかげでひとつのチームになり、単なるガイドの知識以上のものがたくさん学べたと思います。

日本に住んでいたときにも使ったことがない日本語をモンゴルに帰ってきてから使い、たくさんのことを学びました。

もちろん、言語というのは一生をかけても学びきれないものだと思います。なぜかというところ、ガイドという仕事は文化や歴史、もしくは習慣に関するもののみならず、観光客の安全、ツアー中に注意すること、ツアー中に見学する名所までのルート、歩く道、食事、お手洗いなどすべてを案内する必要があります。そのため、常に調べながら、学びながら頑張っています。ツアー中は自分が知らないことやできないこともたくさんあり、苦しくて泣きたい気分になるときもあります。でも、好きな仕事なので諦めず、努力して働いています。最後になりますが、いつも新しいことに挑戦させ、勉強させてもらっている観光ガイドという仕事に心より感謝しています。この道を歩くチャンスを提供してくれた先生方や学習環境を作って



写真 40. 「日本語観光ガイド養成実践講座」 T.バヤルマー

くれたモンゴル・日本センターの全てのスタッフにあらためて感謝の意をお伝えします。

「日本語観光ガイド養成実践講座」 T.バヤルマー

「京都大学 iUP プログラム入学予定者のためのプレ日本語講座」感想

私は、京都大学とモンゴル・日本センターとの契約によるプレ日本語講座を2023年6月から2ヵ月間受講しました。最初にこのプレ日本語講座のことを聞いたとき、マンツーマンの講座だと思いもしませんでした。日本語力が私と同レベルの学習者達と一緒に学んでいく講座だと想像し、開講日に教室へ向かいました。しかし、私が想像していた光景とはまったく異なり、教室の真ん中に机が一つしかありませんでした。その机の上には私の名前が書かれたネームプレートが置かれ、教科書・教材がきれいに並べられてありました。スクリーンには私のためにオリエンテーションのスライドが映してありました。



写真 41. 「京都大学 iUP プログラム
入学予定者のためのプレ日本語講座
2023」 B.アリウンズル

これまでマンツーマンの語学コースを受講したことがなく、3年間の日本語学習歴の中で一度も会話の授業を受けたことがなかった私には、この75時間のコースは二度と得られない機会のように思えました。（教室に入ると、光が射し込み、まるで映画のワンシーンのようでした（笑）。）

このマンツーマンの講座は、私がこれまでに受講したコースの中で最も実りあるコースでした。日本人の先生、モンゴル人の先生とマンツーマンで授業をすることで、自分の知っていることや知らないこと、興味深い話題について自由に話す時間ができ、授業以外でも日本事情や日本文化について多くのことを学びました。コースで利用した『まるごと』教科書はトピックが本当に面白くて、私の最も欠けているスキルであるスピーキングとライティングの向上にとっても効果がありました。先生方は教科書の内容に限らず、私の将来の専門や興味・関心についての情報収集に役立つ日本のサイトや You Tube チャンネルまで教えてくれました。コース終盤に

日本語能力試験 N1 レベルに合格したことを報告したとき、先生方は私より喜んでいました。先生方が何事にも真摯に取り組んでくれたので、コースはより効果的だったと思います。これから私は「日本語を」ではなく「日本語で」学ぶ旅に出ます。次のステージに進んで日本語を自在に使うための力、情熱、自信を持たせてくれた先生方に心より感謝しています。

「京都大学 iUP プログラム入学予定者のためのプレ日本語講座 2023」

B.アリウンズル

圖書·交流課



I. 2023年図書・交流課活動概要

モンゴル・日本人材開発センターの図書・交流課は、モンゴル・日本両国の相互理解を深める目的で、図書室の運営ならびに「市民講座」、「定期映画会」、「JF文化日本語講座」、日本留学を希望する学生・生徒を対象とした「日本留学フェア」、博報堂教育財団の「日本語交流プログラム」を開催している。

当課はコンピューターコースも担当しており、2023年には「総合コース」および「タイピングコース」を対面とオンラインで計15回実施した。

1) 図書室運営

2023年12月末現在、図書室利用者登録数は29,050名になった。図書室利用者数は2022年は延べ7,000名だったが、2023年は延べ7,209名である。コロナ禍から立ち直った2022年より増加した。

図書室の蔵書数は約11,700冊にのぼる。また、日本の大学・日本語学校の案内、留学に関する資料は100校分を超えている。2023年は新たに約400冊の蔵書が加わった。そのほか、センター図書室が「Read Japan Project」に採用され、日本の社会、政治、歴史、文化に関する英文図書19冊を受け取った。センター図書室にこれまでに図書を寄贈いただいた個人、団体、出版社などの関係者に感謝の意を表した。

2023年から登録システムを完全電子化し、書面による登録を完全に廃止し、図書室来室者がタブレットで登録できるようになった。

文化省が11月を「文化創造月間」と定めたことから、図書室では4つの年齢層の読者を対象に「ブックノートコンテスト」を実施した。これには多くの参加者が集まり、各年齢層の優勝者には賞品を贈呈した。

2023年末、年間で最も多くセンター図書室を訪れ、自宅で本を購入・利用した読者として、シヒホタグ大学1年生のB.ウンダルマーさんを選び、賞品を贈呈した。

図書室の運営のほか、日本文化の普及を目的に、日本の民族衣装の浴衣や着物のレンタルサービスも行っている。2023年は120を超える個人や組織に対して、500着以上の衣類やアクセサリを貸し出した。

図書室内の掲示板では、利用者向けに様々な情報を紹介している。在モンゴル日本国大使館が実施する国費留学試験、モンゴル日本語教師会が実施するJASSOの私費留学試験（EJU）と国際交流基金の日本語能力試験（JLPT）など、日本語学習者にとって重要な試験情報を提供している。

2) 「定期映画会」日本映画上映

毎年恒例の文化イベントの一つである定期映画会では、日本大使館と日本のテレビ局NHKワールドジャパンのご協力のもと、2023年5月17日～19日にわたって『17才の帝国(Teen Regime)』を上映した。本作はNHKが2022年5月7日から放送した5話構成のテレビドラマである。このテレビドラマにモンゴル語字幕を付与し、3日間のシリーズとして提供した。来場者は合計で189人である。定期映画会ではこれまで1話完結型の映画しか上映してこなかったが、今回は初めて複数話のシリーズ作品を公開した。

3) 「市民講座」

市民講座はセンター開設以来、定期的を開催してきた。2023年で83回目となる市民講座は、モンゴル在住の日本人を対象として、「現代に生きる伝統衣装デー」というテーマで実施した。その詳細は「コラム」参照。

4) 日本留学フェア-2023

日本留学フェアは、日本留学に興味のある人のために、毎年秋に開催してきた恒例のイベントである。詳細についてはコラムを参照。14回目となる2023年は、日本の10大学・機関の代表者が来訪してモンゴル・日本センターで開催した。また、資料参加の大学も増えており、今回は4大学が参加した。2日間のフェアでは参加者に計14大学・機関のパンフレットやチラシを配布したほか、特設ウェブサイトwww.edujapan.mnでも大学情報を公開している。また、参加大学のパンフレット、

チラシなどは、モンゴル・日本センターのロビーと図書室の配布資料コーナーにも並べて来館者に提供している。

2024年は「日本留学フェア」を春と秋の2回開催する予定である。

5) 受託事業

毎年恒例の博報堂教育財団「日本語交流プログラム」が今年も盛況に終わった。第13回プログラムに採用されたダルハン市第19番学校の日本語教師L.エンクトヤ氏は、海外教師日本研修に参加し、生徒と共に日本語交流プログラムも無事に終了した。また、第14回プログラムがスタートし、エレデミーン・ウンダラー統合学校（第54番一貫学校）の日本語教師T.エンクプレフ氏が選抜され、2023年11月の海外教師日本研修に無事参加することができた。

また、JICAの協力のもと、6月の「ICT EXPO-2023」に日本から参加した企業19社23名を対象として、7日間のビジネスツアーをビジネス交流課と連携して実施した。

その他に、上記の受託事業に加え九州大学のオンラインセミナー、国際医療福祉大学の入学試験、「ハーン銀行」の職員を対象とした日本の文化紹介イベントなど受託授業として実施した。

表 18：市民講座

No	タイトル	講演者	実施日	場所	参加者数
1	第82回市民講座 「現代に生きる伝統衣装 デール」	図書・交流課	2023.11.25	多目的室	29
	合計				29

出典：モンゴル・日本センター図書交流課月次報告

表 19：定期映画会

No	映画名	実施日	場所	参加者数
1	NHK World Japan 「17歳の帝国(Teen Regime)」 Episode 1～5	2023.05.17～19	多目的室	189
合計				189

出典：モンゴル・日本センター図書交流課月次報告

表 20：受託事業

No	事業名	実施日	対象者	場所	参加者数
1	博報堂教育財団 「日本語交流プログラム」	2023.5.11	中等教育機関 日本語教師	日本、東京	1
2	“ICT EXPO-2023” ビジネスツアー	2023.6	JICA 日本の19の 企業	モンゴル・日 本センター、 IT パーク	23
3	(株)アエロネクストの「モン ゴル新スマート物流シンポ ジウム」	2023.9	JICA Newcom Group (株)アエロネクスト	White rock center	84
4	JASSO ガイドブックの通 訳、編集、印刷	2023.9	JASSO	Impress Colour LLC	1
5	ハーン銀行 「日本文化紹介イベント」	2023. 11, 12	ハーン銀行の 職員	ハーン銀行 本部	80
6	国際医療福祉大学受託事業	2023. 12	国際医療福祉大学の 教師、専門家、受験 者	モンゴル・日 本センター /オンライン/	8
合計					202

出典：モンゴル・日本センター図書交流課月次報告

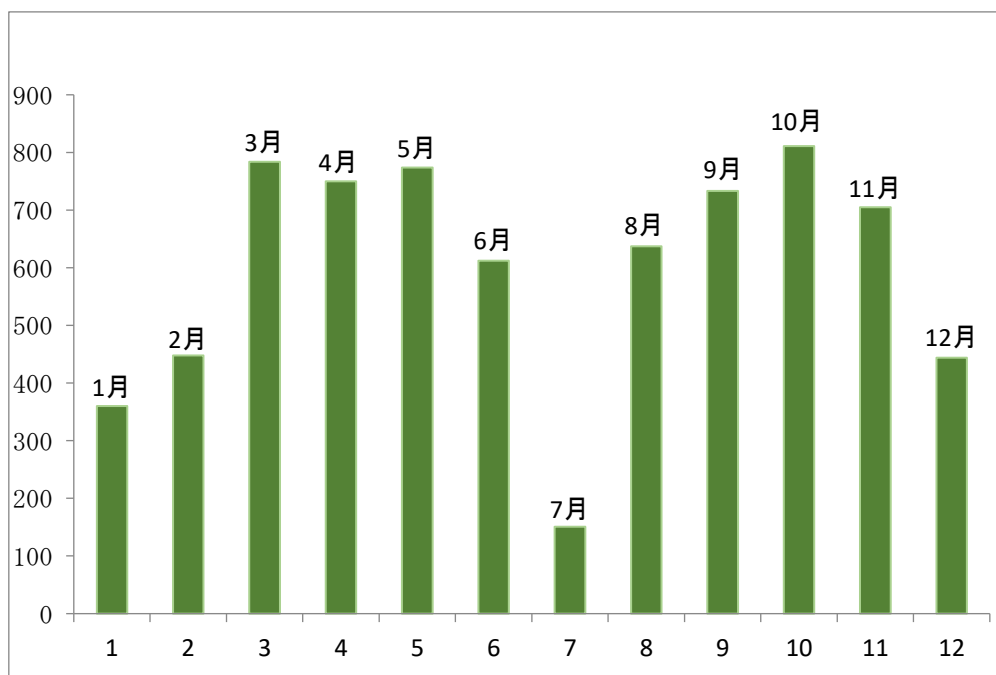
表 21：JF 文化日本語講座

No	講座名	実施日	対象者	場所	参加者数
1	お正月	2023.01.14	学生・生徒	204, 205 号室	20
2	ひな祭り	2023.03.04	生徒	多目的室	32
3	子供の日	2023.05.06	生徒	204, 205 号室	32
4	月見	2023.09.09	市民		24
合計					108

表 22：図書室利用者数

月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
利用者数	360	448	784	750	774	612	151	637	733	811	705	444	7209

グラフ 7：図書室利用者数 2023.01-12



出典：モンゴル・日本センター図書交流課月次報告

表 23：コンピューターコース

No	コース名	期間	回数	内容	講師名	参加者数
1	ハイブリッド タイピング コース	2023年1月～ 12月	10回	「MonTT」タイピング プログラムを利用し、タ ッチタイピングのための 演習をする。	T. Bolormaa	119
2	総合コース		5回	コンピューター基礎知 識、インターネットをは じめ、ワード、エクセ ル、パワーポイントプロ グラムを総合的に学ぶ。	E. Sukh- Erdene	47
合計						166

出典：モンゴル・日本センター図書交流課月次報告

II.コラム

1. 日本留学フェア-2023



写真 42. 留学フェアポスター

2023年10月7日（土）・8日（日）の2日間、モンゴル・日本センター（MOJIC）にて「日本留学フェア-2023（以下「留学フェア」）」を開催した。第14回目となる今年の留学フェアでは日本より13の大学・1機関が参加した（文末参照）。来場者は日本留学に関心のある若者を中心に2日間累計で1,200名に達した。

10月6日（金）には、留学フェア前日の行事として、参加大学・団体の代

表者がノムトナラン学校、サント学校、新モンゴル小中高一貫学校、新モンゴル日馬富士学校、新モンゴル高専、モンゴル科学技術大学などの当地の著名な教育機関を訪問し、学校関係者との面談や生徒向けの大学案内を行った。

留学フェアの開会式ではモンゴル国駐箚日本国特命全権大使小林弘之氏、モンゴル国立大学学生支援機構理事長V.ダシダワー氏、モンゴル・日本センター所長 Ts.ダワードルジが挨拶をした。



写真 43. 開会式

留学フェアでは、国費留学制度の説明（在モンゴル日本国大使館）、日本留学の概要説明（JASSO）、日本語学習ストラテジー（JF 日本語専門家）、帰国留学生体験談（帰国留学生）、大学紹介プレゼンテーション（参加大学・団体）、ブースでの個別相談（参加大学・団体）を実施した。多くの来場者が各大学のブースに詰めかけ、希望する学科・専攻や奨学金制度について質問していた。

留学フェア 2 日目となる 10 月 8 日（日）には、日本帰国留学生の会 JUGAMO による「日本で学んだ経験」をテーマとする「Talkio（帰国留学生トークイベント）」を行った。当イベントでは国費・私費、日本語・英語、グローバル 30 の各プ



写真 44. トークイベントの講演者

ログラムで日本に留学した若者たちが、日本で学んだ経験を披露し、参加者の質問に回答した。

モンゴルの若者が日本の大学で学業を修め、将来の母国の発展を支える人材となるよう、モンゴル・日本センターでは留学フェアを毎年実施するとともに、各種の日本留学情報を常時提供している。

2024 年の留学フェアにもより多くの大学・教育機関に参加してもらい、日本留学の志を持つモンゴルの若者に必要な情報を提供できることを願っている。

表 24：参加大学

 京都先端 科学大学	 兵庫県立大学	 名古屋商科大学	 東京国際大 学	Shape your world  Ritsumeikan Asia Pacific University 立命館アジア 太平洋大学
 東洋大学	 大阪大学	 国際大学	 Yamagata University 山形大学	 慶應義塾大学 Keio University Tokyo, Japan 慶應義塾大学 SFC
世界の幸せをカタチにする。 <small>Creating Peace & Happiness for the World</small>  Musashino University 武蔵野大学	 Programs in English at Komaba THE UNIVERSITY OF TOKYO 東京大学 (PEAK)	 国際医療 福祉大学		

2. 第 83 回市民講座「現代に生きる伝統衣装デール」



写真 45. デールの説明の様子

2023 年の第 83 回市民講座はモンゴル在住の日本人向けに「現代に生きる伝統衣装デール」というテーマで実施した。モンゴルの民族衣装デールの歴史や文化を紹介したほか、デールの試着や専門の先生によるモンゴル舞踊を体験した。インターネット上で簡単に情報が手に入る現代において、実際に

見て、触れて、体験できるこのようなイベントに対する外国人のニーズの高さを実感した貴重な講座だった。

実施にあたっては、参加者に包括的な情報を分かりやすく提供することを目指した。プレゼンテーションはデールの起源、特性、素材、用途、古代と現代のテーマ

に分けて行った。参加者からは普段得られない情報を母語で得られたことが高く評価された。参加者も自分のデールを持参し、その生地や文様の意味などについて質問したりして、充実した楽しい時間を過ごした。

今後は日本人観光客向けに、民族衣装だけでなく、モンゴルの日常習慣、伝統的な遊び、踊り、食事など、さまざまなテーマについて、講義と体験を組み合わせた講座を開催していきたい。



写真 46. モンゴル舞踊体験の様子



写真 47. 集合写真

3. 博報堂教育財団の「日本語交流プログラム」

～子供の日本語を通じた交流や異文化体験の事業を支援～

「ことばの力を根幹に置いて、子どもたちの成長に寄与したい」と設立された公益財団法人博報堂教育財団が実施している「世界の子ども日本語ネットワーク推進事業」。その目的は、日本語を通じた異文化体験や国際交流により、日本の生徒と海外の生徒がお互いの理解を深め、文化の異なる人と、社会的課題に向かってともに行動できる国際人として成長する機会を提供とすることである。事業内容は、海外で日本語を教える中等教育機関（日本の中学校に相当）の日本語教師が日本で研修を受ける「海外教師日本研修」、日本語を学ぶ海外の生徒が日本参加校を訪問して、同世代の日本の中学生と日本語による交流や異文化体験を行う「日本語交流プログラム」である。モンゴル・日本センターでは2009年よりこの事業の一部を受託している。



写真 48. 海外教師研修

第13回「日本語交流プログラム」にはダルハン市の第19番学校の日本語教師L. エンフトヤ先生が決定した。エンフトヤ先生は2022年11月に「海外教師日本研修」、2023年5月に生徒4名とともに「日本語交流プログラム」にそれぞれ参加し、第13回プログラムが無事に終了した。日本を訪問した生徒達は、日本人生徒のほか、スペイン、インドネシア、タイ、トルコなど9カ国の生徒達と日本語で会話し、自分たちの学校紹介や馬頭琴演奏、グループを組んでのテーマ発表を行った。また、学校訪問やホームステイ、東京スカイツリーなどの観光地訪問で日本の文化・社会体験を積んで帰国した。4名の生徒の感想は、「日本人の思いやりの心と接客サービスを見て驚いた」「人前で礼儀正しくすることとマナーを学んだ」「日本の現代・伝統文化に触れられた東京が一番気に入った」、「馬頭琴を演奏した時、日本人の教師や生徒はとても喜んでいた」、「日本の生徒は先生の言うことをちゃんと聞いていた」「日本の生徒が熱心に勉強しているのを見てモチベーションが上がった」などさまざまである。貴重な体験をして多いに刺激を受けたことが伺える。



写真 49. 日本語交流プログラム



写真 50. 日本語交流プログラム

帰国後、生徒達はホームステイ先や各国の参加者とインターネットで交流を続けている。また、目を見たものや学んだことを同級生と共有したり、学校に新しいアイデアを提案したりするなど、体験から得た成果は今もなお継続している。

次代を担う子どもたちの豊かな人間形成につながるこの事業を、日本・モンゴルセンターは2024年も引き続き支援していく。

4. 読書会：村上春樹『海辺のカフカ』

村上春樹は日本近代文学を代表する偉大な作家であり、その作品は書店や電子書籍の売り上げで常にベストセラーとなっている。

2023年は彼の作品のひとつ『海辺のカフカ』の読者会イベントを実施した。この作品は彼の10冊目の小説で、2002年に日本で出版され、2017年にモンゴル語に翻訳された。読書会は正式には「作家と読者の会」という名前だが、今回のように外国の著者の作品の場合は翻訳者に参加していただいている。作品についての翻訳者のコメントを聞いたり、翻訳プロセスについての意見を興味深く聞いたりすることは、日本語で直接日本文学作品を読みたいと考えている若者に対して、非常に有益な情報とインスピレーションを与えられただろう。参加者は5つのグループに分かれて小説についてディスカッションしたり、翻訳者と意見交換したり、作品につい

て活発な交流をした。そして、翻訳者が用意した下記の質問に基づいて各グループが話し合い、グループの代表者1人が話し合った内容を他のグループに発表した。

- カラスと呼ばれる少年は誰か？彼は田村カフカの内なる魂のどの部分を表しているのだろうか？
- フランツカフカ・田村カフカ・カラスと呼ばれる少年はお互いにどんな関係があるのだろうか。
- カラスはどんな場面で出てくるか。それは何を象徴しているか？
- 運命や意味のある偶然は小説の中でどのような役割を果たしているか？
- カフカの運命はカルマなのだろうか。



写真 51. 読書会の様子



写真 52. 村上春樹の作品

こうして、モンゴル国立大学のモンゴル語クラスの日本人学生2名を含む25名の読者が参加し、さらに興味深い会となった。小説について日本人の考え方を聞くのはモンゴル人の参加者にはとても面白かったようだ。また、参加者の中には村上春樹の著作に関するニュースや情報を議論したり発表したりする、数千人のメンバーがいる Facebook グループの管理者もいた。参加者は自分の本に翻訳者のサインをもらい、翻訳者は読者の感想を多角的に聞き、その日はみんなとても満足していた。下記の村上春樹の作品はセンター図書室にある。その他の作者の日本文学作品も日本語版はもとより、モンゴル語・英語の翻訳版もある。ぜひこちらで日本文学作品を楽しんでいただきたい。

表 25：センター図書室の村上春樹作品リスト

No	作品名	分類	
1	1Q84 (Book-1)	900-829	モンゴル語
2	1Q84 (Book-2)	900-830	
3	1Q84 (Book-3)	900-831	
4	ノルウェイの森	900-422	
5	色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年	900-0072	
6	海辺のカフカ 下、上	900-173, 174	
7	騎士団長殺し 第 1	900-206	
8	騎士団長殺し 第 2	900-207	
9	女のいない男たち	900-827	
10	ねじまき鳥クロニクル 第 1 部	P900-(mu-1)	
11	ねじまき鳥クロニクル 第 2 部	P900-(mu-2)	
12	ねじまき鳥クロニクル 第 3 部	P900-(mu-3)	
13	風の歌を聴け	P900-(mu-14)	
14	羊をめぐる冒険 (上)	P900-(mu-12)	
15	羊をめぐる冒険 (下)	P900-(mu-13)	

5. 日本文化紹介講座「浴衣着付け体験イベント」

モンゴル・日本センターは両国間の友好協力と相互理解を促進するため、様々な事業を行っている。今回のイベントは日本の建築設計事務所に勤務している今門千佳子氏に協力していただいた。2023年2月頃、今門氏から『浴衣着付け体験』を協力で実施したいという依頼が届いた。今門氏の趣味は着物を着ったり、着せることで、同僚のモンゴル人と話がしたくてモンゴル語の勉強を始めたそうだ。今回、今門氏がモンゴルを訪問するにあたり、日本伝統衣装を通じて日本とモンゴルとの文化交流ができないかと当イベントを企画したとのことである。



写真 53. 帯の結び方を教えている様子



写真 54. 浴衣着付けのサポート

今門氏とモンゴル・日本センターの双方は5ヶ月前から準備を進め、2023年7月20日に無事実施することが出来た。当日は22名の参加者が日本文化に触れながら、着付け体験をした。そして、参加者の中から3名をくじ引きで選び、浴衣を贈呈した。

当イベントで使用した浴衣は、今門氏がインスタグラムの個人アカウントで4ヶ月にわたって寄付を募集し、日本全国から集めた物である。また、今門氏の妹さんも日本から浴衣着付けをサポートのためにお越しいただいた。講師も参加者も大満足で、是非また会いたいという願いとともに今回のイベントが終了した。

6. 日本に行く前に知っておきたい社会文化

最近、留学や技能実習で日本に行くモンゴル人が増えている。この増加にともない、日本の社会文化に関する知識不足で問題を起こしたり、必要な手続き書類などをよく知らずに日本での生活が不安に感じたりするモンゴル人も少なくない。その不安を少しでも減らし、日本でより安心・安全な生活を送る支援を行いたいと考え、当講座を JICA と共催で初めて実施した。

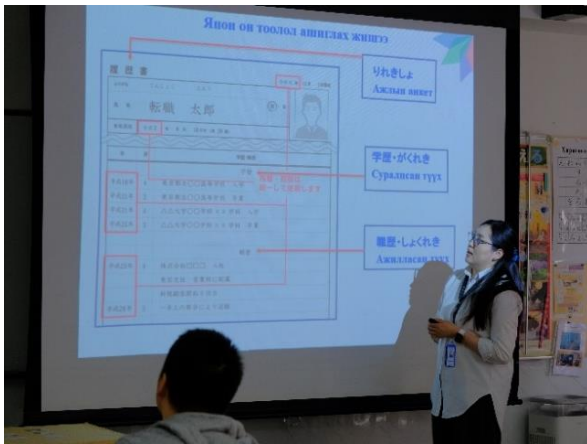


写真 55. 日本の暦



写真 56. グループディスカッション

講座の内容は来日前に必ず知っておきたい主な手続き書類、日本で生活する中に必要となる手続き書類の二つに分かれる。講座で使われた全資料は日本での留学や就職の経験がある職員によって作られた物である。住民登録、印鑑作り、銀行口座開設、交通手段、履歴書、部屋の賃借、運転免許証変更、アルバイトの探し方、給料にかかる税金の計算方法、病院での受診、国民年金の脱退一時金、モンゴルと日本の文化の違い、日本のマナーなどの日本での生活に関する幅広い情報を提供することができた。

また、講義後、グループディスカッションを行った。各グループに日本での留学や就職の経験あるモンゴル人職員を入れ、参加者が自分の困っていることを聞けるようにした。

総務課



I. 2023 年度の総務の活動概要

総務課はモンゴル・日本センターの経理、人事、IT、公文書作成・管理、清掃、設備、警備というような基本業務を実施し 2023 年度の達成率は 96%となった。

コロナ禍は収束したが消毒、感染対策を徹底的に行った。またセンター内のリソースを活用して、センターの建物や施設の管理を着実に実行したことで職員及び来館者の安全かつ快適な環境を整えることができた。事業達成度が高く評価されたことは全職員の努力、協力の結果である。

会場利用実績

表 26：主催機関

No	主催機関名	イベント実施数（回）
1	在モンゴル日本国大使館	4
2	JICA	20
3	モンゴル国立大学	9
4	モンゴル日本語教師会	5
5	その他	90
合計		128

出典：モンゴル・日本センター総務課月次報告

表 27：事業内容

No	イベント内容	イベント実施数（回）
1	モンゴル国立大学事業	6
2	JICA事業	15
3	ビジネスコース、セミナー	49
4	研究会、セミナー	15

5	日本語セミナー、試験	10
6	公開セミナー	7
7	企業内研修（モンゴル企業）	3
8	日本留学フェア、説明会、試験	2
9	その他	20
合計		127

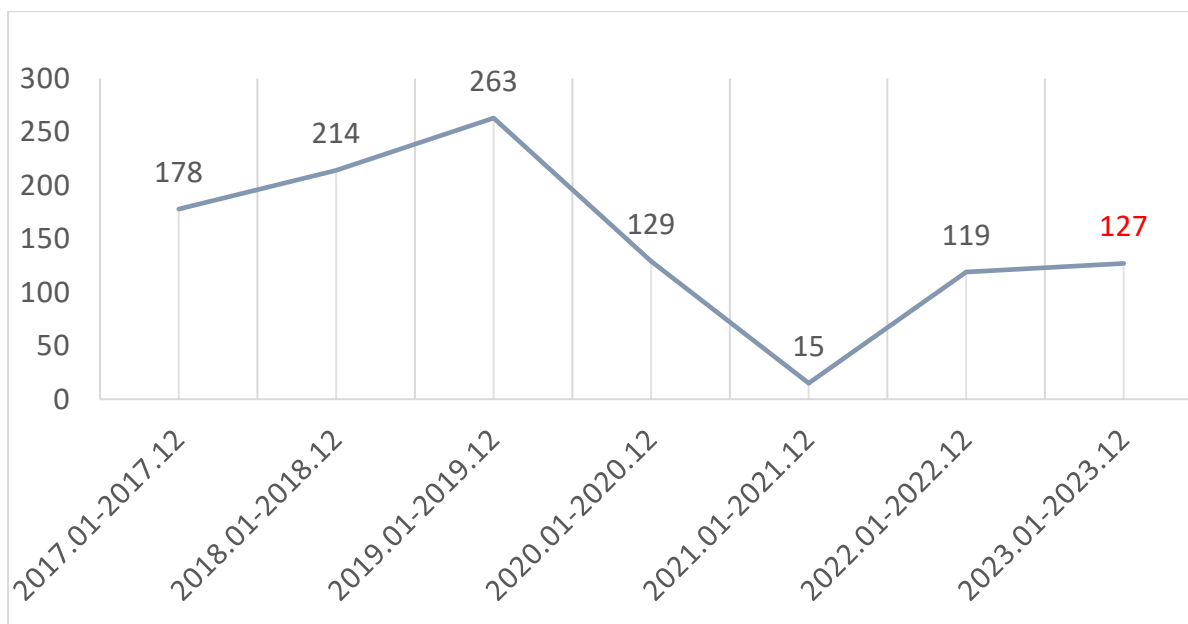
出典：モンゴル・日本センター総務課月次報告

上記の業務を JICA、JF やモンゴル国立大学の専門家らの指導や支援により実施することができた。以下の指標からわかるように、施設利用件数がコロナ禍前の時期のレベルに達してないが、今後、活動はますます増える傾向にある。

近年 5 年間の来館者数 2023 年 12 月 31 日まで：

合計 2,633,326 名（重複数）

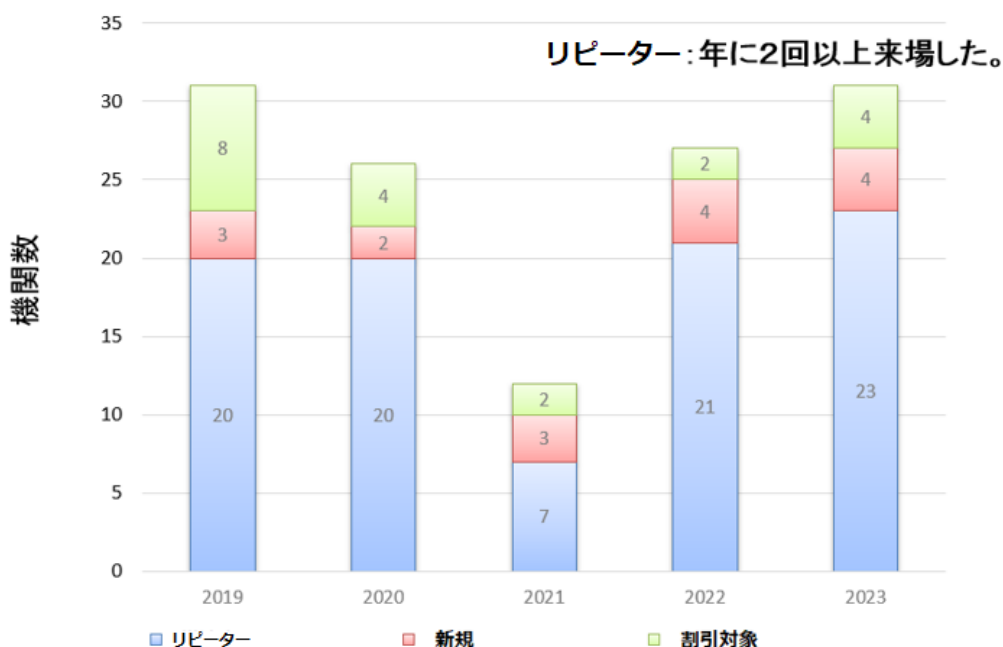
グラフ 8：過去 7 年間の施設利用実績



出典：モンゴル・日本センター総務課月次報告

グラフ9：過去3年間の施設利用質的指標（回数）

近年3年間で外部機関の施設利用レポート状況



15

I. コラム

1. 国際大会の開催



写真 57：参加少年選手たちと審査員長

我々は、2023年6月23日から25日まで「オセロゲーム」の第一回アジア大会をセンタービルにて無事開催することができた。本大会には日本、中国、韓国、台湾、シンガポール、オーストラリア、モンゴルなど7か国の計114名の選手が参加し、そのうち、5歳から15歳までのユース選手が64名、女性アスリート

が40名であった。本大会はオセロにとって歴史的な成功となった。



写真 58 : 大会主催者と受賞者たち

チーム活動



ТАЙЛАН

МОНГОЛ-ЯПОНЫ ХҮНИЙ
ТӨӨЦИЙН ХӨГЖЛИЙН ТӨВ

モンゴル・日本センター内チームについて

モンゴル・日本人材開発センター（以下「センター」という）のスタッフは、課の担当している仕事以外にチームに分かれてセンターの業務の改善と、スタッフの交流促進、個人の能力向上を兼ねていくつかのチームに分かれて仕事をしている。2023年に全スタッフが「広報チーム」、「5S改善チーム」、「健康・スポーツチーム」、「単独イベントチーム」、「互助会チーム」の5つのチームを結成し業務を実施した。

チーム活動によりチームワークを高め、他の課のスタッフとの関連性がよくなり、新しい改善案を提案したり、自己成長にも繋がっている。

1. 広報チーム

広報チームはモンゴル・日本センターをより多くの人に知ってもらうために、センターで実施されている各種コースや事業イベントに関する情報発信とセンターやモンゴルに関する情報を提供することを目的とし2016年に結成されて活動を続けている。

2023年度事業:

№	年月	事業	内容
1	2023.03	モンゴル・日本センターの年報作成	各年の活動内容の年報（事業報告書）を作成している。2023年は年報作成を開始して15回目になり、年報をデジタル化し、オンラインで作成した。
2	2023	モンゴル・日本センターの事業広報用のポスター、動画作製	センターの事業広報のための125以上のポスターと20以上のバナー、スタンドをスタッフたちが作成した。その結果、2,475,000円をコスト削減し、6,000,000円の収益をえた。
3	2023	ソーシャルマーケティング	フェイスブックのフォロー数が15%上がり、69,000名となり、インスタグラムを積極的に活用し、フォロー数が1,500になった。約4,200のチャットに対応

			し、フェイスブックページやグループにきたハッカー攻撃から防ぐことができた。
4	2023	チームメンバー	新しいメンバーは当初チームの活動を完全に理解できない場合があったので、前のメンバーたちがまた1年残り、アドバイスをしながら一緒に協力し活動した。

2.5S 改善チーム

当センターでは2016年以降、5S改善活動を継続的に実施している。5S改善チームではセンター内の整理・整頓、清掃などのほかに、収入増加や支出削減に影響するような無理・無駄をなくす活動を提案し、実行している。また、職場の雰囲気づくりの一環として、サンクスカードによる奨励活動を実施したり、5Sの実施状況をチェックする5Sパトロールを実施したりした。

近年、センターでは若い新人職員が増えているため、5Sの基本をふり返る「5S改善と何か」、「センターにはどうして5Sが必要か」というテーマの研修を4回実施した。また、センターのスタッフに講師を依頼し「5S改善とは何か」、「気づきとは」、「無理・無駄・むらとは」といったテーマの研修を行った。さらに、実際に5S活動をしているMONSHIBASAKIという企業で見学と研修を実施した。

今年の活動の中で、工夫したことがいくつかある。一つは以前から行っていた「赤札」というキャンペーンを「赤箱」に変更したことである。「赤箱」とは、必要なものと不要なものを分け、不要なものを入れておく箱のことである。その人にとっては不要なものであっても、他の人にとっては必要ということがある。不要なものをすぐに処分するのではなく、必要な人に使ってもらうことで、無駄を減らす試みとして導入した。

もう一つの工夫は「改善BOX」である。これは、センター内の業務や環境に関する改善提案を出すための箱である。改善BOXに出された改善案は、まず5Sチーム内で検討した後、関係者へ改善を実施するように働きかけてきた。改善の範囲は、整理・整頓・清掃と言った点だけでなく、収入アップや支出削減につながるような

改善まで含まれる。この「改善 BOX」には今年 1 年で 39 もの改善案が寄せられたが、その内 21 の改善を実行し、直面している問題を解決しすることができた。残り 18 の改善案については現在も検討が進められているところである。

5S 改善チームでは、今後も 5S 活動を通じて職場のより良い環境作りに貢献していくとともに、新人職員も遠慮せずに自分の意見や提案を出すことができる仕組み作りにも引き続き取り組んでいきたい。

「職員向け研修 2023」

「改善 BOX」キャンペーン



3. 健康・スポーツチーム

目標: 公共スポーツの発展を通じて職員のコミュニケーションを改善し、健康的なライフスタイルを取り入れること

2023 年の活動内容 :

No	年月	活動名	場所	備考
1	1月～12月 8:55～	・朝の体操	ロビー	ラジオ体操を定期的 に実施し、火曜と木曜に国立

				大学のオフィス用の体操を全スタッフでやっている。
2	9月～12月 18:00-20:00	・スポーツタイム	国立第19番学校の体育館	職員の身体的および免疫的健康をサポートし、チームの雰囲気を作り、バレーボールの基本的な技術とスキルを教え、効果的に時間を過ごすために実施した。（費用は従業員の自己負担）
3	3月、11月	・薬やその他の用品の補給	-	必要な薬やその他の用品を買い、供給した
4	1月	国立大学講師、従業員スポーツ大会	国立大学体育館	国立大学講師、従業員スポーツ大会に参加し、チームで3位にはいることができた。

4. イベントチーム 2023 年度の報告

2023 年度のイベントチームは「活動内容の充実に努め、温かい環境及び人間関係を作ろう」という目標の下、モンゴル・日本センター職員向けイベントを実施し、年間で延べ 198 人が参加した。

1. 「デールの日」イベント

例年行っている「デールの日」イベントを開催した。冒頭で Ts.ダワードルジ所長が挨拶し、モンゴル・日本センターの卯年が幕を開けた。



写真 59. 「デールの日」イベント

2. 女性の日、軍人の日のイベント

3月17日には「女性の日」と「軍人の日」を祝す「男女の日」イベントを開催した。おいしいご飯を囲んで、ゲームやおしゃべりを心ゆくまで楽しんだ。

3. JICA チーフアドバイザー及び新人職員の歓送迎会

モンゴル・日本センターに3年間派遣されていた大西義文 JICA チーフアドバイザーの送別会と新人職員3名の歓迎会を開催した。



写真 60:モンゴル・日本センター所長 Ts.ダワードルジ、
JICA チーフアドバイザー 大西義文

写真 61:左から E.ゲゲーンチョルーン、B.ブマンツェツェグ、
Kh.ジャルガルマー

4. 「母と子供の日」の職員の子供たち向けイベント

2020年から2022年までの3年間、インフルエンザやコロナウイルスの影響で開催できなかった「子供の日」イベントをようやく再開することができた。当日は、職員とその子女がセンターに集まり、歌やゲームなどをして親子みんなで楽しい一日を過ごした。



写真 62. 「母と子供の日」のイベント

5. モンゴル・日本センター職員向け合宿研修

8月に、自然豊かな観光地である「トゥンフル村」で職員向け合宿研修を開催した。今回の研修では初めて鉄道で移動を行ったが、日本人の専門家の中には初めてモンゴルの列車旅を経験した人もおり、楽しい思い出になったのではないかと思います。また、JICAから新しく派遣された井崎宏 JICA チーフアドバイザーの歓迎会も開催された。

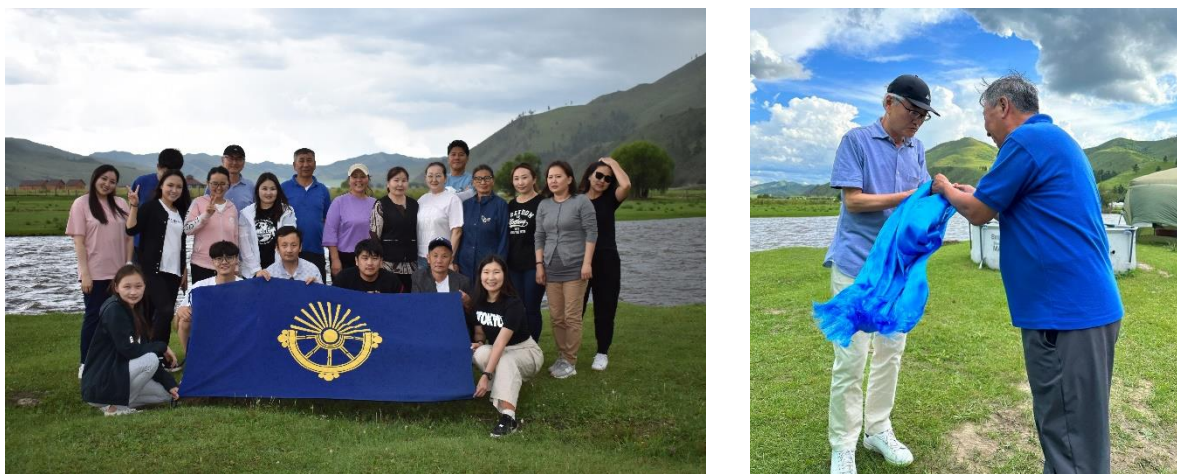


写真 63:モンゴル・日本センター所長 Ts.ダワードル
ジ、JICA チーフアドバイザー 井崎 宏

6. 職員への動画形式のお祝いメッセージ

イベントチームでは職員の誕生日や特別な記念日に、お祝いのメッセージを動画形式で作成し、職員の Facebook グループに投稿した。仕事の都合で直接会えないとき、留学や出張などで遠距離にいても、投稿のコメント欄などを通じて、お祝いの言葉や日頃の感謝の気持ちを伝えることができるので、職場や職員同士の良好な人間関係構築にとっても役立っている。

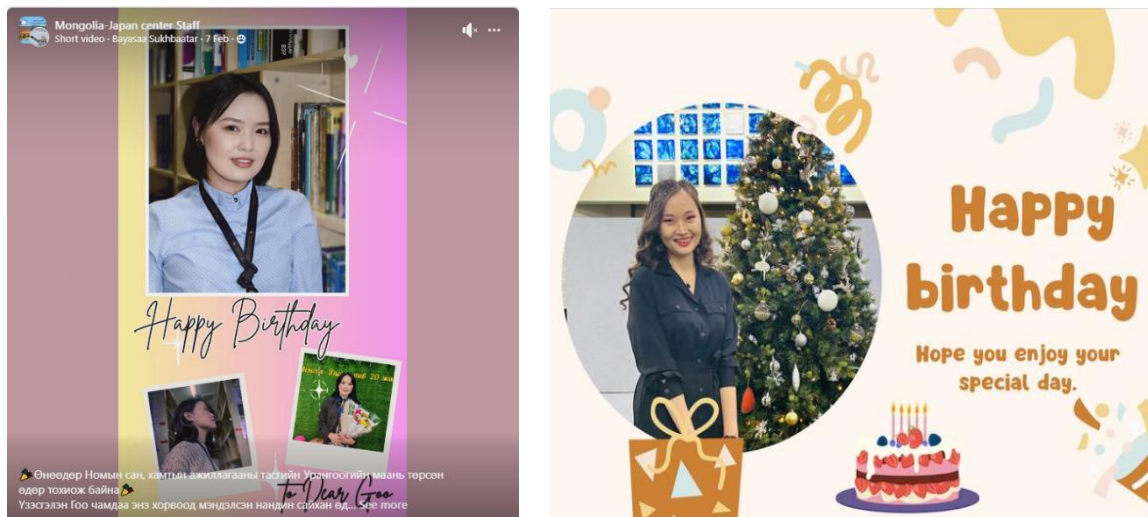


写真 64 :モンゴル・日本センター職員のお誕生日お祝い